

JAPAN/MARC MARC21 フォーマット マニュアル

典拠編

国立国会図書館

2 0 1 2

目次

1.	はじめに	4
2.	収録範囲と内容	4
3.	フォーマットとデータ内容	5
4.	データの文字表現形式及び凡例	6
5.	読みの表現方法	7
6.	関連規格及びコード一覧	9
7.	用語の説明	10
8.	フォーマット及びデータ要素一覧	12
9.	データ例示	26
10.	2011年11月までに作成したレコードについて	30
11.	データ要素説明	31
	レコードラベル部	33
	●00-04 典拠レコード長	33
	●05 レコード・ステータス	33
	●06 レコード種別	34
	●07-08 未定義項目	34
	●09 文字コード	34
	●10 インディケータの長さ	34
	●11 サブフィールド識別子の長さ	34
	●12-16 データのベースアドレス	34
	●17 符号化レベル	34
	●18-19 未定義項目	34
	●20 データフィールド長領域の長さ	34
	●21 先頭文字位置領域の長さ	34
	●22 適用者指定項目の長さ	34
	●23 未定義項目	35
	00X : レコード管理ブロック	36
	001 レコード管理番号	37
	003 レコード管理番号識別子	38
	005 レコード最終更新年月日	39
	008 一般コード化情報	40
	0XX : 番号・コードブロック	44

035	他 MARC 番号等.....	45
040	典拠作成機関等.....	46
065	分類記号.....	48
1XX	： 標目ブロック	50
100	標目-個人名.....	51
110	標目-団体名	54
130	標目-統一タイトル	55
151	標目-地名.....	57
4XX	： 「を見よ」 参照ブロック	59
400	「を見よ」 参照指示-個人名	60
410	「を見よ」 参照指示-団体名	64
430	「を見よ」 参照指示-統一タイトル	67
451	「を見よ」 参照指示-地名	70
5XX	： 「をも見よ」 参照ブロック	73
500	「をも見よ」 参照指示-個人名.....	74
510	「をも見よ」 参照指示-団体名.....	77
551	「をも見よ」 参照指示-地名	79
6XX	： 注記ブロック	82
670	根拠.....	83
675	推量読み等.....	87
678	来歴.....	89
680	一般注記.....	91
682	標目訂正に関する注記.....	92
8XX	： 代替表現ブロック	93
880	他の字形による表現（カナ読み・ローマ字読み）	94
付録 A	文字種の取扱い基準（2012 年 1 月以降）	96
付録 B	『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』における片仮名読み表記要領.....	98
付録 C	『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』におけるローマ字読み表記要領	107

1. はじめに

国立国会図書館では、2012年1月から、米国議会図書館が提供する MARC21 フォーマットに準拠した「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」での書誌・典拠データの頒布を開始する。

本マニュアルはこの「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」のうち『JAPAN/MARC (A)』について説明する。

2. 収録範囲と内容

本マニュアルが対象とする『JAPAN/MARC (A)』では、著者名典拠及び固有名件名典拠を提供する。固有名データは、個人名、家族名、団体名、地名、統一タイトル名に大別される。対応書誌レコードは、『JAPAN/MARC (M)』及び『JAPAN/MARC (S)』に収録する資料、及び和古書である。ただし、アジア言語資料は対応書誌レコードに含まない。

3. フォーマットとデータ内容

「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」は、書誌情報交換用の国際標準フォーマット（ISO 2709）及びMARC21に準拠している。

MARC 21は、米国議会図書館が提供し、各国で採用されているMARCフォーマットである。

「JAPAN/MARC MARC21 フォーマット」では、日本語の特徴である漢字データとその読みを示す「カナ」、「ローマ字」データとのリンクを行うため、特殊な処理を加えている。

フォーマットのデータフィールド群は、MARC 21に準拠して、以下の7ブロックに大別し、その中をフィールド、サブフィールドに細分してある。各フィールドはフィールド識別子及びインディケータによって、サブフィールドはサブフィールド識別子で識別することができる。

ブロック	ブロック名	概要
00X	レコード管理ブロック	レコード管理番号、その他のコード化情報
01X～09X	番号・コードブロック	標準番号、分類記号、コード等
1XX	標目ブロック	標目として使用される名辞
4XX	「を見よ」参照ブロック	標目ブロックへの「を見よ」参照形
5XX	「をも見よ」参照ブロック	標目ブロックへの「をも見よ」参照形
6XX	注記ブロック	注記
8XX	代替表現ブロック	他の字形による表現（カナ読み・ローマ字読み）

4. データの文字表現形式及び凡例

(1) 使用する文字コード

JAPAN/MARC で使用する文字コードは ISO/IEC 10646 (UCS)、符号化形式は UTF-8 とする。ただし、上記体系の範囲内の文字であっても、「付録 A 文字種の取扱い基準(2012年1月以降)」に従い置き換える場合がある。

(2) 制御文字符号

ISO/IEC 10646 で定義されているもののうち、JAPAN/MARC で使用する制御文字符号は以下のとおりである。

コード	機能
1f (Hex)	サブフィールド識別子の最初の文字を示す
1e (Hex)	フィールド区分文字を示す
1d (Hex)	レコード区分文字を示す

(3) 凡例

本マニュアルの例の中では、便宜上以下の表現方法をとっている。

フィールド識別子	数字 3 桁で示す。例) 100
インディケータ	数字 2 桁で示す。例) 00
サブフィールド識別子 (サブフィールド開始文字+ サブフィールド識別文字)	サブフィールド開始文字を「\$」で、サブフィールド識別文字をアルファベット又は数字 1 文字で示す。例) \$a
フィールド区分文字	「¥」で示す。
空白	それぞれ以下の通り表現する。 ・# インディケータ及びコード中の空白 ・△ 記述中の空白 ・□ 区切り記号上の空白
レコード区分文字	「@」で示す。

5. 読みの表現方法

JAPAN/MARC MARC21 フォーマットでは、MARC 21 Format for Authority Data の [Appendix C - Multiscript Records Model A: Vernacular and transliteration](#) に準拠し、漢字データとその片仮名読み、ローマ字読みのデータをフィールド 880 (他の字形による表現 (カナ読み・ローマ字読み)) とそれ以外のフィールドの組で表現する。

- 880以外のフィールド (以下「正規フィールド」という) :
漢字データを収録する。
組となる片仮名読み、又はローマ字読みがあるときは、サブフィールド\$6に組となるフィールド識別子「880」とオカレンス番号を収録する。
- 880フィールド :
片仮名読み及びローマ字読みを、フィールドを繰り返して収録する。
第1インディケータ、第2インディケータとも、組となる正規フィールドと同値とする。
サブフィールド\$6に、組となる正規フィールドのフィールド識別子、オカレンス番号、及び当該880フィールドの文字種コードを収録する。
文字種コードは、片仮名読みの場合「\$1」 (Script identification codeで“Chinese, Japanese, Korean”を意味するコード値。以下「CJK」という。)、ローマ字読みの場合「(B)」 (Script identification codeで“Latin”を意味するコード値) とする。

(例) 100、500の読みを収録する場合

100 1# \$6 880-01 \$a 栗本, □薫, \$d 1953-2009¥	←\$6 の 880=組となるフィールド識別子、01=オカレンス番号
500 1# \$6 880-02 \$a 中島, □梓, \$d 1953-2009 \$0 00104727¥	←\$6 の 880=組となるフィールド識別子、02=オカレンス番号
880 1# \$6 100-01/\$1 \$a クリモト, □カオル, \$d 1953-2009¥	←\$6 の 100=組となるフィールド識別子、01=オカレンス番号、\$1=文字種コード (CJK)
880 1# \$6 100-01/(B) \$a Kurimoto, □Kaoru, \$d 1953-2009¥	←\$6 の 100=組となるフィールド識別子、01=オカレンス番号、(B)=文字種コード (Latin)
880 1# \$6 500-02/\$1 \$a ナカジマ, □アズサ,	←\$6 の 500=組となるフィールド識別子、01=オカレンス番号、\$1=文字種コード (CJK)

\$d 1953-2009
\$0 00104727¥
880 1# \$6 500-02/(B
\$a Nakajima, □Azusa,
\$d 1953-2009
\$0 00104727¥

←\$6 の 500=組となるフィールド識別子、01=オ
カレンス番号、(B=文字種コード (Latin))

片仮名読みの表記は、「付録 B 『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』における片仮名読み表記要領」に従う。

ローマ字読みの表記は、「付録 C 『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』におけるローマ字読み表記要領」に従う。

6. 関連規格及びコード一覧

(1) 国際規格

ISO 2709

Information and documentation -- Format for Information Exchange

ISO 8601

Data elements and interchange formats -- Information interchange --
Representation of dates and times

ISO/IEC 10646

UCS; Universal Multiple-Octet Coded Character Set

(2) 国内規格

JIS X 0221 国際符号化文字集合 (UCS)

(ISO 10646)

JIS X 0301 情報交換のためのデータ要素及び交換形式ー日付及び時刻の表記

(ISO 8601)

(3) MARC21 コード表

[MARC Code List for Organizations](#)

[MARC Code List for Languages](#)

[Description Convention Source Codes](#)

[Classification Scheme Source Codes](#)

[Subject Heading and Term Source Codes](#)

7. 用語の説明

本マニュアルの中で使われている主な用語について説明する。

1. インディケータ

データフィールドの最初に置く 2 バイトのデータ。フィールド内のデータに関する付加的情報を示したり、リンク付けなどレコード内の他のフィールドとの関係、あるいはデータ処理過程で要求される特定の処理に対する付加的情報を示す。

2. サブフィールド

データフィールドを構成する要素の一つで、特定の典拠データを入れる部分をいう。

3. サブフィールド識別子

サブフィールドの最初に置くサブフィールドを同定、識別するための 2 バイトのデータ。サブフィールド開始文字、サブフィールド識別文字からなる。本文の例では、サブフィールド開始文字を\$で表示してある。

4. スペース

一連の図形符号内で空欄として示される図形キャラクタ。

5. 先頭位置

各データフィールドの第 1 文字目の位置を示すもの。データのベースアドレスから何バイト隔たっているかで表現する。

6. ディレクトリ

レコードの中の各データフィールドのフィールド識別子、フィールド長、先頭位置を示す記載項目（エントリ）のテーブル。

7. データのベースアドレス

レコードの中の各データフィールドの先頭番地を示すための原点。レコードの冒頭ではなく、データフィールド群の先頭位置。

8. データフィールド

典拠レコードを構成する可変長フィールドで、特定の種類のデータを収録する。

9. データフィールドの長さ

対応するデータフィールドの物理的な範囲であり、具体的にはそのバイト長をいう。フィールド区分文字を含む。

10. 典拠レコード

書誌レコードの標目に関する情報（典拠データ）を収めたフィールドの集合。レコードラベル部、ディレクトリ部、フィールド区分文字、データフィールド群及びレコード区分文字からなる。

11. バイト

文字を表現する単位。

1 2. フィールド区分文字

各可変長フィールドを区切るため、その末尾に用いる制御文字。本文の例では、フィールド区分文字を¥で表示してある。

1 3. フィールド識別子

各データフィールドに対応してそのフィールドの内容を同定するための文字列。

1 4. UTF-8

文字符号化スキームの一つ。1文字を1~6バイトで符号化する。英数字は1バイトで1文字を表現するが、漢字や仮名等は3バイトで1文字を表現する。

1 5. レコード区分文字

レコードを論理的に区切るため、その末尾に用いる制御文字。本文の例では、レコード区分文字を@で表示してある。

1 6. レコード長

典拠レコードの先頭からレコード区分文字までの1件の典拠レコードの長さ。

1 7. レコードラベル

典拠レコードの冒頭のフィールドで、そのレコードの操作処理上の要件を示すもの。

8. フォーマット及びデータ要素一覧

No.	構成要素			特記事項等
	名称	表示形式	表示幅 (Byte)	
				文字コード(*1)
	レコードラベル部(*2)			以下 No.1～14 の固定長(24Byte)
1	典拠レコード長	数字	5	レコードラベル部の先頭より典拠レコードの長さ(バイト数)を5桁の10進数で表示する。 5桁に満たない場合0埋め。“00577” レコードラベル部の長さ(24Byte)+ディレクトリ部の長さ+フィールド区分文字(1Byte)+データフィールド群の長さ+レコード区分文字の長さ(1Byte)
2	レコード・ステータス	英字	1	“n”：新規 “c”：訂正 “d”：削除
3	レコード種別	英字	1	“z”固定
4	未定義項目	英字	2	半角スペース2つ(2Byte)固定
5	文字コード	英字	1	“a”固定
6	インディケータの長さ	数字	1	“2”固定
7	サブフィールド識別子の長さ	数字	1	“2”固定
8	データのベースアドレス	数字	5	データフィールド群の先頭位置を表す。 典拠レコードの先頭からのバイト数を10進数5桁で表示する。 5桁に満たない場合0埋め。“00169”
9	符号化レベル	英字	1	“n”固定
10	未定義項目	英字	2	半角スペース2つ(2Byte)固定
11	データフィールド長領域の長さ	数字	1	“4”固定

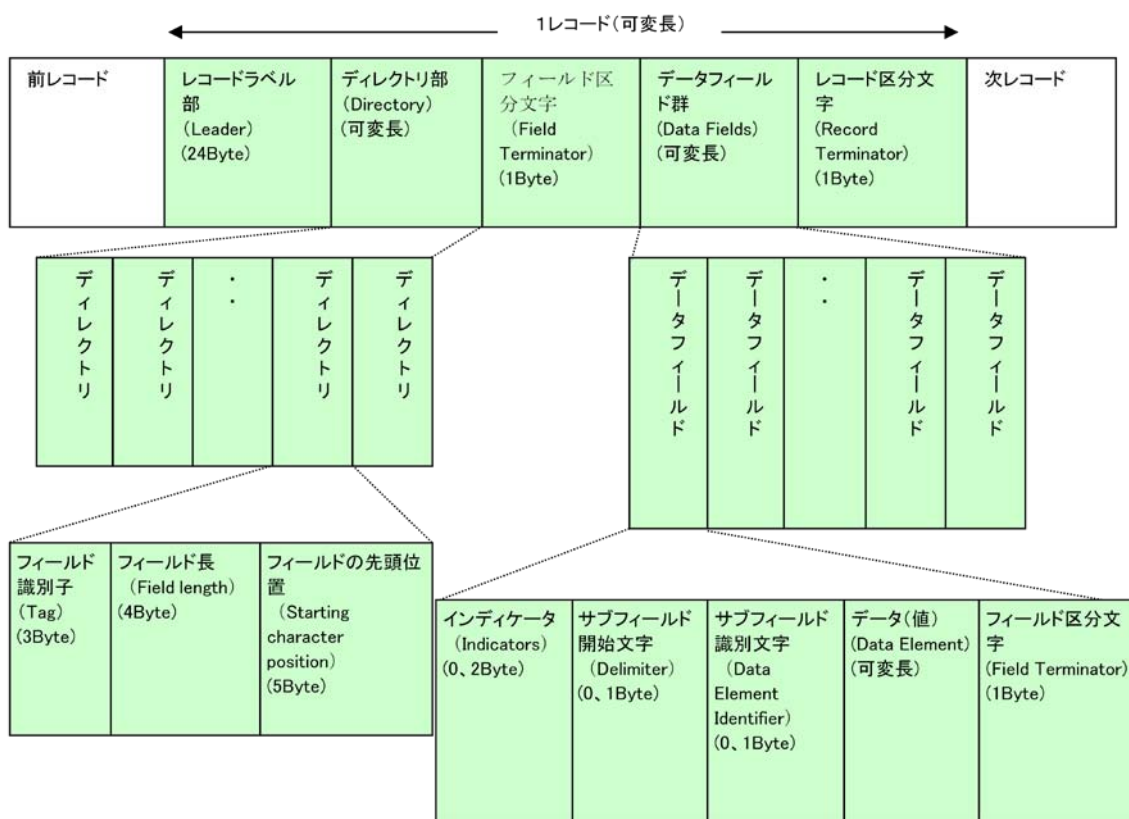
12	先頭文字位置領域の長さ	数字	1	"5"固定
13	適用者指定項目の長さ	数字	1	"0"固定
14	未定義項目	数字	1	"0"固定
ディレクトリ部(*2)				可変長。No.1~3 のディレクトリの集合より構成される。(12×nByte) n : データフィールド数
1	フィールド識別子	数字	3	フィールドを識別するための3桁の数字(タグ)>(*3) データフィールドに値のないタグは省略。
2	フィールド長	数字	4	データフィールドの長さ(バイト数)を示す4桁の10進数。4桁に満たない場合0埋め。"0009" フィールドの長さには、インディケータ、サブフィールド開始文字、サブフィールド識別文字、及びフィールド区分文字も含む。
3	フィールドの先頭位置	数字	5	当該フィールドの先頭文字の位置をデータフィールド群の先頭(データのベースアドレス)から相対バイト数で示す。5桁の10進数で、5桁に満たない場合0埋め。"00015"
フィールド区分文字(*2)				ディレクトリ部の最後に挿入する。
1	フィールド区分文字	Binary	1	フィールド区分文字。1e(Hex)固定
データフィールド群(*2)				固定長/可変長。 ・ディレクトリにて指定された位置、長さのデータフィールドの集合により構成される。 ・前述した「データフィールドの長さ」は、以下のNo.1~5の長さの合計値とフィールド区分文字との和を表す。 ・データのないデータフィールドは省略。 ・サブフィールド識別子を持たないデータは、以下のNo.1~3の項目を省略。 ・データ及びタグについては(*3)を参照。
1	インディケータ	数字 / 英字	0,2	存在しない場合は省略。
2	サブフィールド開始文字	Binary	0,2	サブフィールド識別子の最初の文字。1f(Hex)固定

3	サブフィールド識別文字	数字 / 英字	1	サブフィールド識別子の 2 文字目。サブフィールドを識別するための英小文字 1 字。(*3)
4	データ	数字 / 英字 / 漢字	可変長	データフィールドの値を表示。
5	フィールド区分文字	Binary	1	フィールド区分文字。1e(Hex)固定
レコード区分文字 (*2)				各レコードの最後に挿入する。
1	レコード区分文字	Binary	1	レコード区分文字。1d(Hex)固定

(*1)文字コード体系は、以下のとおりとする。

文字コード	符号化方式
UCS or ISO/IEC 10646	UTF-8

(*2)本ファイルのレコード形式の考え方を以下にまとめる。



(*3)以下にタグ一覧を記載する。凡例は以下のとおり。

【フィールド】

番号順にフィールドを並べる。

【サブフィールド識別文字／文字位置】

出現順にサブフィールド識別文字・文字位置を並べる。

【必須】

当館で作成する典拠データにおけるフィールド、サブフィールド、文字位置の要求度を示す。フィールド名と同行にある場合は、フィールドの要求度、サブフィールド名又は文字位置名と同行にある場合は、フィールドが存在する場合のサブフィールドの要求度をそれぞれ示す。

フィールド、サブフィールド、文字位置が省略不可で、必ず出現する場合は「M」と記載する。当フォーマットでは、固定長フィールドの任意の文字位置において、コード不使用の値「|」が許容される場合であっても、値の省略は不可であることから、「M」と記載することとする。

<記号の用法>

M 必須 (Mandatory)

A あれば必須 (Applicable)

○ 任意 (Optional)

【繰り返し】

フィールド単位、サブフィールド単位の繰り返し可否を示す。フィールド名と同行にある場合は、フィールド単位の繰り返し、サブフィールド名と同行にある場合は、サブフィールド単位の繰り返しをそれぞれ示す。繰り返し可否については、米国議会図書館の定める「MARC 21 Format for Authority Data」に基本的に準拠するが、一部、当館の典拠作成ルールにより、繰り返しに制約を設ける。

<記号の用法>

- 繰り返し可
- 空白 繰り返し不可

【備考】

<記号の用法>

- # 半角スペース

【サンプル】

サブフィールド単位でサンプルデータを例示する。必ずしもフィールド単位で一連のデータになっていないことを注意されたい。

<記号の用法>

- # 半角スペース

フィールド	フィールド名	インディケータ1	インディケータ2	サブフィールド識別文字／文字位置	サブフィールド名称／文字位置名称	必須	繰り返し	備考	サンプル
001	レコード管理番号	-	-			M			00054222
003	レコード管理番号識別子	-	-			M		"JTNDL"固定	JTNDL
005	レコード最終更新年月日	-	-			M		YYYYMMDDHHMMSS.0	20001221145237.0
008	一般コード化情報	-	-			M		固定長 40Byte	
				00-05	レコード新規作成年月日	M		YYMMDD YYは西暦年の下二桁	091221
				06	地理区分指示	M		"#"固定	#
				07	ローマ字化スキーム	M		" "固定	
				08	目録用言語	M		" "固定	
				09	典拠の種類	M		"a"固定	a
				10	適用する目録規則	M		"z"固定	z
				11	適用する件名標目表	M		"z"固定	z
				12	シリーズのタイプ	M		"n"固定	n
				13	シリーズの番号付の有無	M		"n"固定	n
				14	タイトル標目及び著者標目としての使用可否	M		"a"固定	a
				15	件名標目としての使用可否	M		"a"固定	a
				16	シリーズ標目としての使用可否	M		"b"固定	b
				17	細目の種類	M		"n"固定	n
				18-27	未定義	M		"#####"	#####
28	官公庁の種類	M		"f" : 中央官庁 "l" : 地方自治体 "#" : 官公庁以外 " " : コード不使用	f				

				29	レファレンス・エ ヴァリュエーシ ョン	M		" "固定	
				30	未定義	M		"#"固定	#
				31	レコードの状態	M		" "固定	
				32	個人名典拠がユニ ークか否か示 すコード	M		"a" : 個人名がユニ ークである "n" : 適用外 個人名典拠の場合常 に a を記録する。そ れ以外の場合家族 名を含め n を記録 する。	n
				33	標目確立状況	M		"a" : 確立標目 "c" : 未確認標目 "d" : 仮標目 c, d は一部データに 出現するが、通常は a である。	a
				34-3 7	未定義	M		"####"固定	####
				38	改変レコード	M		"#" : 改変なし "x" : 文字の欠落あ り (レコード中にゲ タ (=) が存在する 場合)	x
				39	典拠作成機関	M		"#"固定	#
035	他 MARC 番号等	9	#			0	○		
				\$a	その他管理番号	M		旧典拠 ID を記録す る。	00256779
040	典拠作成機関 等	#	#			M			
				\$a	目録作成機関	M		"JTNDL"固定	JTNDL
				\$b	目録用言語	M		"jpn"固定	jpn
				\$c	目録変換機関	M		"JTNDL"固定	JTNDL
				\$e	目録規則	M		"ncr"固定	ncr
				\$f	件名標目表	M		"ndlsh"固定	ndlsh
065	分類記号	#	#			0	○		
				\$a	分類記号	M			EC94
				\$2	分類法	M		"kktb" : "NDLC" "njb/09" : "NDC 9 版" "njb/08" : "NDC 8 版"	kktb
100	標目-個人名	1 3	#			A		第 1 インディケー タ : 実体種別 "1" : 個人名 "3" : 家族名	

				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-01
				\$a	個人名	M			【個人名】 Rudolf 【家族名】 Habsburg (家)
				\$b	世系	A			1 世
				\$d	生没年	A			1219-1291
				\$c	その他の付記事項	A			神聖ローマ皇帝
110	標目-団体名	2	#			A			
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-01
				\$a	団体名	M		団体名の付記事項は、標目形に続けて、括弧付きでここに記録する。	日本総合研究所 (1989 年)
130	標目-統一タイトル	#	0			A			
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-01
				\$a	統一タイトル件名	M			てにをは紐鏡
				\$x	主題細目	A	○		評釈
				\$z	地名細目	A	○		
				\$y	時代細目	A	○		
				\$v	形式細目	A	○		索引
151	標目-地名	#	#			A			
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-01
				\$a	地名	M			アメリカ合衆国
				\$x	主題細目	A	○		外国関係
				\$z	地名細目	A	○		アラブ諸国
				\$y	時代細目	A	○		1945-
				\$v	形式細目	A	○		年表

400	「を見よ」参照指示-個人名	1 3	#			A	○	第 1 インディケータ : 実体種別 "1" : 個人名 "3" : 家族名	
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-02
				\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "r" : \$i に関係を明示	r
				\$i	名称種類	A		\$w="r" の場合に、ここに標目形との関係性を示す文字列を記録する。	本名
				\$a	個人名を見よ参照形	M			古今亭, 志ん馬
				\$b	世系	A			5 代目
				\$d	生没年	A			1912-
				\$c	その他の付記事項	A			医学
410	「を見よ」参照指示-団体名	2	#			A	○		
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-02
				\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "r" : \$i に関係を明示	r
				\$i	名称種類	A		\$w="r" の場合に、ここに標目形との関係性を示す文字列を記録する。	英語名
	\$a	団体名を見よ参照形	M			Nagoya Chamber of Commerce and Industry			
430	「を見よ」参照指示-統一タイトル	#	0			A	○		

				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-02
				\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "r" : \$i に関係を明示	r
				\$i	名称種類	A		\$w="r" の場合に、ここに標目形との関係性を示す文字列を記録する。	原名称
				\$a	統一タイトル件名を見よ参照形	M			東海中膝栗毛
				\$x	主題細目	A	○		評釈
				\$z	地名細目	A	○		
				\$y	時代細目	A	○		
				\$v	形式細目	A	○		索引
451	「を見よ」参照指示-地名	#	#			A	○		
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-02
				\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "r" : \$i に関係を明示 LCSH 又は BSH の典拠レコード管理番号を \$i に記録する場合、"r" を入力する。	r
				\$i	名称種類	A			BSH4: 00697000
				\$a	地名を見よ参照形	M			イギリス
				\$x	主題細目	A	○		外国関係
				\$z	地名細目	A	○		アジア (東部)
				\$y	時代細目	A	○		18 世紀
				\$v	形式細目	A	○		論文集
500	「をも見よ」参照指示-個人名	1 3	#			A	○	第 1 インディケータ : 実体種別 "1" : 個人名	

							"3" : 家族名	
			\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-03
			\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "r" : \$i に関係を明示	r
			\$i	名称種類	A		\$w="r" の場合に、ここに標目形との関係性を示す文字列を記録する。	本名
			\$a	個人名をも見よ参照形	M			井上, 幸一
			\$b	世系	A			2 世
			\$d	生没年	A			1870-1934
			\$c	その他の付記事項	A			川柳
			\$0	リンク先レコード管理番号	M			00019597
510	「をも見よ」参照指示-団体名	2	#		A	○		
			\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-03
			\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "r" : \$i に関係を明示	b
			\$i	名称種類	A		\$w="r" の場合に、ここに標目形との関係性を示す文字列を記録する。	別名称
			\$a	団体名をも見よ参照形	M			大日本雄弁会講談社
			\$0	リンク先レコード管理番号	M			00256844

551	「をも見よ」参照指示-地名	#	#			A	○		
				\$6	読みの対応関係	A		当該フィールドの読みを格納するフィールド 880 との対応関係を記述する。注 1 を参照。	880-03
				\$w	コントロール・サブフィールド	A		\$w/0 (当該サブフィールド内の 1 桁目の文字位置) "a" : 旧称 "b" : 新称 "d" : 略称 "g" : 上位語 "h" : 下位語 "r" : \$i に関係を明示	g
				\$i	名称種類	A			
				\$a	地名をも見よ参照形	M			ロシア
				\$x	主題細目	A	○		外国関係
				\$z	地名細目	A	○		アメリカ合衆国
				\$y	時代細目	A	○		20 世紀
				\$v	形式細目	A	○		史料
				\$0	リンク先レコード管理番号	M			00569729
670	根拠	#	#			A	○		
				\$a	根拠	M			ある未来の座標, 1970
				\$b	情報源	A			本文 (読み)
675	推量読み等	#	#			0			
				\$a	推量読み等	M	○		名は推量読み
678	来歴	0 1	#			0	○	第 1 インディケータ: データ種別 "0": 個人名・家族名 "1": 団体名・地名	
				\$a	来歴	M			2001 年 1 月省庁再編
				\$b	来歴の根拠	0			ReaD (20101101)
680	一般注記	#	#			0	○		
				\$i	一般注記	M			名称の種類: 本名
682	標目訂正に関する注記	#	#			0			

				\$i	標目訂正に関する注記	M	○		稲荷神社一伏見稲荷 大 社 (20040707)
880	他の字形による表現(カナ読み・ローマ字読み)	X	X			A	○	第 1 インディケータ・第 2 インディケータ 対応するフィールドの指示子と同値とする。読みの表現については、注 1 を参照。	
				\$6	読みの対応関係	M		対応するフィールドを指示する。	100-01/\$1
				X	対応するフィールドに同じ	M		対応するフィールドと同じ用法でサブフィールドを使用する。	

注 1) 読みの表現方法について

読みの表現方法は、Appendix C: Multiscript Records の Model A に準拠する。

正規フィールドに対応するカナ形・ローマ字形読みをフィールド 880 に保持する。正規フィールドと読みフィールドの対応関係は、サブフィールド\$6 に下記のとおり値を格納することにより表現する。

フィールド名	\$6 の値
正規フィールド	読みフィールド番号-オカレンス番号
読みフィールド(カナ形)	正規フィールド番号-オカレンス番号/\$1
読みフィールド(ローマ字形)	正規フィールド番号-オカレンス番号/(B

※オカレンス番号とは、読みを持つ正規フィールドの出現順を示す 2 桁の数字である。

※ “/” は Appendix D で規定されている区切り記号。“\$1” は Script identification code で “Chinese, Japanese, Korean” を意味するコード値、“(B” は Script identification code で “Latin” を意味するコード値。

(例)

100 1# \$6880-01

\$a 栗本, □薫,

\$d1953-2009 ¥

500 1# \$6880-02

\$a 中島, □梓,

\$d1953-2009

\$000104727 ¥

880 1# \$6100-01/\$1

\$a クリモト, □カオル,

\$d1953-2009 ¥

880 1# \$6100-01/(B
\$aKurimoto, □Kaoru,
\$d1953-2009

880 1# \$6500-02/\$1
\$a ナカジマ, □アズサ,
\$d1953-2009
\$000104727

880 1# \$6500-02/(B
\$aNakajima, □Azusa,
\$d1953-2009
\$000104727

9. データ例示

<凡例>

- ・ JAPAN/MARC MARC21 フォーマットの典拠レコード例を下表に示す。
- ・ 実際の JAPAN/MARC MARC21 フォーマットでは、データフィールドにはインディケータ（表中では「ind.」という）、サブフィールドコード、及び値が格納されているが、便宜上フィールドコードとともに示す。
- ・ レコードラベル、インディケータ、及び固定長フィールド中の半角スペースは「#」で示す。可変長フィールド中の半角スペースは特に記号で示さない。
- ・ サブフィールド区分文字は「\$」、フィールド区分文字は「¥」、レコード区分文字は「@」で示す。ただし「\$1」はサブフィールド中の値である。

<個人名>

レコードラベル	00814nz##a2200229n##4500	
ディレクトリ	001001000000003000600010005001700016008004100033040003400074100003600108400 003000144670002600174670004300200678002000243680003600263682002800299500004 700327880005100374880004300425880006200468880005400530¥	
データフィールド		
フィールド	ind.	サブフィールドコード及び値
001		001072393¥
003		JTNDL¥
005		20110908094942.0¥
008		110817# azznnaabn##### # aa##### ¥
040	##	\$a JTNDL \$b jpn \$c JTNDL \$e ncr \$f ndlsh ¥
100	1#	\$6 880-01 \$a 中島, 梓, \$d 1953-2009 ¥
400	1#	\$w r \$i 本名 \$a 今岡, 純代 ¥
670	##	\$a 文学の輪郭, 1978 ¥
670	##	\$a 六月の桜, 2009: \$b カバー(没年) ¥
678	0#	\$a 文芸評論家 ¥
680	##	\$i 別名: 栗本, 薫, 1953-2009. ¥
682	##	\$i 没年追加 (20090721) ¥
500	1#	\$6 880-02 \$a 栗本, 薫, \$d 1953-2009 \$0 001072394 ¥
880	1#	\$6 100-01/\$1 \$a ナカジマ, アズサ, \$d 1953-2009 ¥
880	1#	\$6 100-01/(B \$a Nakajima, Azusa, \$d 1953-2009 ¥
880	1#	\$6 500-02/\$1 \$a クリモト, カオル, \$d 1953-2009 \$0 001072394 ¥

880	1#	\$6 500-02/(B \$a Kurimoto, Kaoru, \$d 1953-2009 ¥@
-----	----	---

<家族名>

レコードラベル	00419nz##a2200157n##4500	
ディレクトリ	0010010000000030006000100050017000160080041000330400034000740650015001080650 01800123100002500141670003200166880003400198880002900232 ¥	
データフィールド		
フィールド	ind.	サブフィールドコード及び値
001		001072429 ¥
003		JTNDL ¥
005		20110903091953.0 ¥
008		110822# azznnaabn#####f # na##### ¥
040	##	\$a JTNDL \$b jpn \$c JTNDL \$e ncr \$f ndlsh ¥
084	##	\$a GK13 \$2 kktb ¥
084	##	\$a 288.3 \$2 njb/08 ¥
100	3#	\$6 880-01 \$a 徳川 (家) ¥
670	##	\$a 石川正西間見集, 1968 3 ¥
880	3#	\$6 100-01/\$1 \$a トクガワ (ケ) ¥
880	3#	\$6 100-01/(B \$a Tokugawa (Ke) ¥@

<団体名>

レコードラベル	01408nz##a2200289n##4500	
ディレクトリ	00100100000000300060001000500170001600800410003304000340007406500150010806 50018001231100034001414100049001754100040002244100011002646700032002756780 01000307678002800317678034900345510004200694880006300736880004400799880009 500843880006700938880006101005880005201066 ¥	
データフィールド		
フィールド	ind.	サブフィールドコード及び値
001		001072397 ¥
003		JTNDL ¥
005		20110903092130.0 ¥
008		110817# azznnaabn#####f # na##### ¥
040	##	\$a JTNDL \$b jpn \$c JTNDL \$e ncr \$f ndlsh ¥
084	##	\$a UA31 \$2 kktb ¥
084	##	\$a 069.6 \$2 njb/08 ¥

110	2#	\$6 880-01 \$a 東京国立博物館 ¥
410	2#	\$6 880-02 \$a 国立博物館東京国立博物館 ¥
410	2#	\$w r \$i 英語名 \$a Tokyo National Museum ¥
410	2#	\$w d \$a TNM ¥
670	##	\$a 日本と東洋の美, 1992 ¥
678	1#	\$a 1952- ¥
678	1#	\$a 1952 年 3 月名称変更 ¥
678	1#	\$a 1968 年 6 月, 文化庁設置により文部省より移管 ; 2001 年 1 月省庁再編 ; 2001 年 4 月, 東京国立博物館, 京都国立博物館, 奈良国立博物館の 3 館が統合し, 独立行政法人国立博物館となる ; 2007 年 4 月 (独) 国立博物館と (独) 文化財研究所が統合し, (独) 国立文化財機構となる ¥
510	2#	\$6 880-03 \$a 国立博物館 \$0 001072406 \$w a ¥
880	2#	\$6 110-01/\$1 \$a トウキョウ コクリツ ハクブツカン ¥
880	2#	\$6 110-01/(B \$a Tokyo kokuritsu hakubutsukan ¥
880	2#	\$6 410-02/\$1 \$a コクリツ ハクブツカン トウキョウ コクリツ ハクブツカン ¥
880	2#	\$6 410-02/(B \$a Kokuritsu hakubutsukan tokyo kokuritsu hakubutsukan ¥
880	2#	\$6 510-03/\$1 \$a コクリツ ハクブツカン \$0 001072406 \$w a ¥
880	2#	\$6 510-03/(B \$a Kokuritsu hakubutsukan \$0 001072406 \$w a ¥@

<地名>

レコードラベル	00416nz##a2200133n##4500	
ディレクトリ	0010010000000030006000100050017000160080041000330400034000741510041001086700 02600149880006200175880004500237 ¥	
データフィールド		
フィールド	ind.	サブフィールドコード及び値
001		001072413 ¥
003		JTNDL ¥
005		20110903091818.0 ¥
008		110818# azznnaabn##### # na##### ¥
040	##	\$a JTNDL \$b jpn \$c JTNDL \$e ncr \$f ndlsh ¥
151	##	\$6 880-01 \$a 千葉県 \$x 歴史 \$v 写真集 ¥
670	##	\$a 消えた砂浜, 2005 ¥
880	2#	\$6 151-01/\$1 \$a チバケン \$x レキシ \$v シヤシンシュウ ¥
880	2#	\$6 151-01/(B \$a Chibaken \$x Rekishi \$v Shashinshu ¥@

<統一タイトル>

レコードラベル	00797nz##a2200253n##4500	
ディレクトリ	001001000000003000600010005001700016008004100033040003400074065001500108065 001900123130002500142430001900167430002800186670003800214670004100252680004 300293880004100336880003200377880002500409880002100434880005000455880003800 505 ¥	
データフィールド		
フィールド	ind.	サブフィールドコード及び値
001		001072461 ¥
003		JTNDL ¥
005		20110903092205.0 ¥
008		110823# azznnaabn##### # na##### ¥
040	##	\$a JTNDL \$b jpn \$c JTNDL \$e ncr \$f ndlsh ¥
084	##	\$a KG59 \$2 kktb ¥
084	##	\$a 913.36 \$2 njb/08 ¥
130	#0	\$6 880-01 \$a 源氏物語 ¥
430	#0	\$6 880-02 \$a 源語 ¥
430	#0	\$6 880-03 \$a 光源氏物語
670	##	\$a 源氏物語とその時代, 1948 ¥
670	##	\$a 日本古典籍総合目録 (200708) ¥
680	##	\$i 紫式部(平安中期)による著作 ¥
880	#0	\$6 130-01/\$1 \$a ゲンジ モノガタリ ¥
880	#0	\$6 130-01/(B \$a Genji monogatari ¥
880	#0	\$6 430-02/\$1 \$a ゲンゴ ¥
880	#0	\$6 430-02/(B \$a Gengo ¥
880	#0	\$6 430-03/\$1 \$a ヒカルゲンジ モノガタリ ¥
880	#0	\$6 430-03/(B \$a Hikarugenji monogatari ¥@

10. 2011年11月までに作成したレコードについて

2011年11月までに作成したレコードでは、2011年12月から作成したレコードと以下のように異なる場合がある。

(1) 2011年11月までに作成したレコードにのみ存在するフィールド

- ・035 他 MARC 番号等

インディケータ：“9#” 固定。

\$a に、2011年11月までに付与した8桁の当館のレコード管理番号を記録する。

フィールド001にも同じ値が記録されている。

(2) 複数のフィールドに共通の相違点

- ・細目の種類

フィールド130、151、430、451、551において細目の種類を示すサブフィールドは以下のとおりであるが、2011年11月までに作成したレコードでは、サブフィールド識別子が示す細目の種類と異なる種類の細目が記録されている場合がある。

\$v 形式細目

\$x 一般細目

\$y 時代細目

\$z 地名細目

2011年12月から作成したレコードにおいては、サブフィールド識別子が示す細目の種類と、それぞれのサブフィールドに記録されている細目の種類は一致する。

その他、各フィールド個別の相違点については、「11. データ要素説明」を参照のこと。

1 1. データ要素説明

内容

レコードラベル部.....	33
●00-04 典拠レコード長.....	33
●05 レコード・ステータス.....	33
●06 レコード種別.....	34
●07-08 未定義項目.....	34
●09 文字コード.....	34
●10 インディケータの長さ.....	34
●11 サブフィールド識別子の長さ.....	34
●12-16 データのベースアドレス.....	34
●17 符号化レベル.....	34
●18-19 未定義項目.....	34
●20 データフィールド長領域の長さ.....	34
●21 先頭文字位置領域の長さ.....	34
●22 適用者指定項目の長さ.....	34
●23 未定義項目.....	35
00X : レコード管理ブロック.....	36
001 レコード管理番号.....	37
003 レコード管理番号識別子.....	38
005 レコード最終更新年月日.....	39
008 一般コード化情報.....	40
0XX : 番号・コードブロック.....	44
035 他 MARC 番号等.....	45
040 典拠作成機関等.....	46
065 分類記号.....	48
1XX : 標目ブロック.....	50
100 標目-個人名.....	51
110 標目-団体名.....	54
130 標目-統一タイトル.....	55
151 標目-地名.....	57
4XX : 「を見よ」参照ブロック.....	59
400 「を見よ」参照指示-個人名.....	60
410 「を見よ」参照指示-団体名.....	64

430	「を見よ」参照指示-統一タイトル	67
451	「を見よ」参照指示-地名	70
5XX	: 「をも見よ」参照ブロック	73
500	「をも見よ」参照指示-個人名	74
510	「をも見よ」参照指示-団体名	77
551	「をも見よ」参照指示-地名	79
6XX	: 注記ブロック	82
670	根拠	83
675	推量読み等	87
678	来歴	89
680	一般注記	91
682	標目訂正に関する注記	92
8XX	: 代替表現ブロック	93
880	他の字形による表現（カナ読み・ローマ字読み）	94

レコードラベル部

レコードラベルは 24 桁からなり、各データ要素はその位置によって定義される。

要素名称	文字数	文字位置
典拠レコード長	5	00-04
レコード・ステータス	1	05
レコード種別	1	06
未定義項目	2	07-08
文字コード	1	09
インディケータの長さ	1	10
サブフィールド識別子の長さ	1	11
データのベースアドレス	5	12-16
符号化レベル	1	17
未定義項目	2	18-19
データフィールド長領域の長さ	1	20
先頭文字位置領域の長さ	1	21
適用者指定項目の長さ	1	22
未定義項目	1	23

●00-04 典拠レコード長

典拠レコードの長さ(バイト数)を 5 桁の 10 進数で表示する。5 桁に満たない場合“00525”のように 0 埋めしている。典拠レコードの長さ (バイト数) とは、具体的には「レコードラベル部の長さ (24Byte) +ディレクトリ部の長さ+フィールド区分文字 (1Byte) +データフィールド群の長さ+レコード区分文字 (1Byte)」である。

●05 レコード・ステータス

c	訂正
n	新規
d	削除

典拠レコードの状態を表すアルファベット 1 文字のコードが記録されている。2011 年 11 月までに作成したデータに一部 n のものが存在するが、通常は c を記録する。なお、頒布される典拠レコードには、削除レコードは収録していない。

- 06 **レコード種別**
 z 典拠データ
常に z を記録する。

- 07-08 **未定義項目**
2 桁分#とする。

- 09 **文字コード**
 a UCS/ユニコード
常に a を記録する。

- 10 **インディケータの長さ**
常に 2 を記録する。

- 11 **サブフィールド識別子の長さ**
常に 2 を記録する。

- 12-16 **データのベースアドレス**
データフィールド群の先頭位置を表す。典拠レコードの先頭からのバイト数を 10 進数 5 桁で表示する。5 桁に満たない場合 “00337” のように 0 埋めしている。

- 17 **符号化レベル**
 n 完成典拠レコード
常に n を記録する。

- 18-19 **未定義項目**
2 桁分#とする。

- 20 **データフィールド長領域の長さ**
常に 4 を記録する。

- 21 **先頭文字位置領域の長さ**
常に 5 を記録する。

- 22 **適用者指定項目の長さ**
常に 0 を記録する。

●23 **未定義項目**

常に 0 を記録する。

(例)

00525cz###a2200337n##4500

00X : レコード管理ブロック

このブロックには、レコード管理番号と、典拠レコードを処理する際に必要な、その他のコード化情報が記録されている。

■フィールド一覧

001	レコード管理番号
003	レコード管理番号識別子
005	レコード最終更新年月日
008	一般コード化情報

001 レコード管理番号

■インディケータ

なし

フィールド必須

フィールド繰り返し不可

■サブフィールドコード

なし

このフィールドには、典拠レコード管理番号を記録する。頒布される典拠レコードでは、8桁又は9桁からなるレコード管理番号が記録されている。

フィールドの末尾には区切り記号なし。

(例)

001 00054222 ¥

003 レコード管理番号識別子

■インディケータ

なし

フィールド必須

フィールド繰り返し不可

■サブフィールドコード

なし

常に JTNDL ([MARC Code List for Organizations](#) で国立国会図書館を表すコード) を記録する。

フィールドの末尾には区切り記号なし。

(例)

003 JTNDL¥

005 レコード最終更新年月日

■インディケータ

なし

フィールド必須

フィールド繰り返し不可

■サブフィールドコード

なし

このフィールドには最終更新日時を示す 16 文字「yyyymmddhhmmss.f」が記録されている。

フィールドの末尾には区切り記号なし。

yyyy：西暦年

mm：月

dd：日

hh：時（00-23 の 24 時制で表記）

mm：分

ss：秒

.f：秒の小数第一位

(例)

005 20110310134034.0¥

(2011年3月10日13時40分34秒)

008 一般コード化情報

■インディケータ

なし

フィールド必須

フィールド繰り返し不可

■サブフィールドコード

なし

このフィールドは 40 桁からなり、桁ごとに規定されたコード化情報を記録する。

- 008/00-05 レコード新規作成年月日
レコード新規作成年月日が yymmdd（西暦下 2 桁、月、日）の形式で記録されている。
- 008/06 地理区分指示
常に#（地理区分不可）を記録する。
- 008/07 ローマ字化スキーム
常に|（コード不使用）を記録する。
- 008/08 目録用言語
常に|（コード不使用）を記録する。
- 008/09 典拠の種類
常に a（典拠が細目以外）を記録する。
- 008/10 適用する目録規則
常に z（その他）を記録する。

- 008/11 適用する件名標目表
常に z (その他) を記録する。実際に件名標目として使用していなくても z を記録する。

- 008/12 シリーズのタイプ
常に n (適用外) を記録する。

- 008/13 シリーズの番号付の有無
常に n (適用外) を記録する。

- 008/14 タイトル標目及び著者標目としての使用可否
常に a (使用可) を記録する。細目がつく場合も a を記録する。
家族名及び統一タイトルは、実際は件名標目のみに使用しているが、a とする。

- 008/15 件名標目としての使用可否
常に a (使用可) を記録する。実際に件名標目として使用していなくても a を記録する。

- 008/16 シリーズ標目としての使用可否
常に b (使用不可) を記録する。

- 008/17 細目の種類
常に n (適用外) を記録する。

- 008/18-27 未定義
10 桁分#とする。

- 008/28 官公庁の種類
 - f 中央官庁
 - l 地方自治体
 - # 官公庁以外
 - | コード不使用

団体名典拠及び地名典拠について、標目が示すものが中央官庁の場合 f、地方自治体の場合 l、いずれでもない場合には#を記録する。

団体名でも地名でもない典拠の場合は、地名の細目付きの典拠も含め|とする。

ただし、2011年11月までに作成した地名の細目付きの典拠で#が記録されている場合がある。

- 008/29 レファレンス・エヴァリュエーション
常に| (コード不使用) とする。

- 008/30 未定義
1 桁分#とする。

- 008/31 レコードの状態
常に| (コード不使用) とする。

- 008/32 個人名典拠がユニークか否か示すコード
 a 個人名がユニークである
 n 適用外
個人名典拠の場合常に a を記録する。それ以外の場合は家族名を含め n を記録する。

- 008/33 標目確立状況
 a 確立標目
 c 未確認標目
 d 仮標目
通常は a を記録する。当館に書誌実績が存在しないものなど、一部コードが c 又は d の典拠が存在する。

- 008/34-37 未定義
4 桁分#とする。

- 008/38 改変レコード
レコードに何らかの改変があるかどうかを、1 桁のコードで記録する。
 # 改変なし
 x 文字の欠落あり (レコード中にゲタ (=) が存在する場合)

- 008/39 典拠作成機関
最初にレコードを作成した機関の種別を、1 桁のコードで記録する。
具体的な機関名は、040\$a に記録する。
 # 全国書誌作成機関
当館が作成するレコードについては、常に#を記録する。

(例)

008 910830# | | azznnaabn##### | | # | aa##### ¥

0XX : 番号・コードブロック

このブロックには、標準番号、分類記号、コード、レコードに関連のあるその他のデータ要素が記録されている。

■フィールド一覧

- 035 他 MARC 番号等
- 040 典拠作成機関等
- 065 分類記号

035 他 MARC 番号等

このフィールドは、2011年11月までに作成したデータにのみ存在する。フィールドの概要については「10. 2011年11月までに作成したレコードについて」を参照のこと。

040 典拠作成機関等

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールド必須 フィールド繰り返し不可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	目録作成機関	必須	不可
\$b	目録用言語	必須	不可
\$c	目録変換機関	必須	不可
\$e	目録規則	必須	不可
\$f	件名標目表	必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 目録作成機関

常に JTNDL ([MARC Code List for Organizations](#) で国立国会図書館を表すコード) を記録する。

●\$b: 目録用言語

常に jpn ([MARC Code List for Languages](#) で日本語を表すコード) を記録する。

●\$c: 目録変換機関

常に JTNDL を記録する。

●\$e: 目録規則

常に ncr (MARC21 [Description Convention Source Codes](#) で「日本目録規則」を表すコード) を記録する。

●\$f: 件名標目表

常に ndlsh (MARC21 [Subject Heading and Term Source Codes](#) で「国立国会図書館件名標目表」を表すコード) を記録する。

(例)

```
040 ## $a JTNDL
      $b jpn
      $c JTNDL
      $e ncr
      $f ndlsh ㊦
```

065 分類記号

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールド任意			
フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	分類記号	必須	不可
\$2	分類法	必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

件名標目が表す主題に相当する代表的な国立国会図書館分類表（以下 NDLC）及び日本十進分類法（以下 NDC）分類記号を記録する。

分類法が同一でも異なっても、分類記号ごとにフィールドを繰り返す。

NDLC を先に記録する。同一分類法の中では分類体系順に記号を記録する。

●\$a: 分類記号

NDLC 分類記号又は NDC 分類記号を記録する。

●\$2: 分類法

分類法を示すコード。[MARC21 Classification Scheme Source Codes](#) に準拠し、以下のとおり適用する。

kktb NDLC

njb/09 NDC9 版

njb/08 NDC8 版

(例)

065 ## \$a GC258

\$2 kktb ¥

065 ## \$a ME352

\$2 kktb ¥

065 ## \$a 291.84

\$2 njb/09 ¥

065 ## \$a 517.2184

\$2 njb/09 ¥

151 ## \$6 880-01

\$a 四万十川 ¥

1XX : 標目ブロック

このブロックには、標目として使用される名辞を収める。以下のフィールドが定義されており、100～151 までのいずれかが必須である。

■フィールド一覧

100	標目-個人名
110	標目-団体名
130	標目-統一タイトル
151	標目-地名

100 標目-個人名

■インディケータ

一番目: 実体種別

1: 個人名

3: 家族名

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し不可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	個人名	必須	不可
\$b	世系	あれば必須	不可
\$c	その他の付記事項	あれば必須	不可
\$d	生没年	あれば必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。

●\$a: 個人名

- ・個人名（例 1）又は家族名（例 2）を記録する。
- ・個人名は姓名の順に記録し、姓と名の間をコンマ、スペース “, ” で区切る。姓名形となっていない個人名は全体を一語として記録する（例 3）。
- ・敬称等は基本的に記録しないが、識別上必要な場合は、\$a に含めて記録する。
- ・家族名については、所在地等の付記事項がある場合は丸括弧で付記する（例 2）。
- ・末尾の区切り記号
 - ①\$b が続く → 記号なし
 - ②\$c 又は\$d が続く → コンマ “,”
 - ③\$a がフィールド末尾 → 記号なし

●\$b: 世系

- ・名称に付記される世系を記録する（例 1）。ここに記録される要素には「家系」「屋号」「王室」「教皇」等がある。
- ・原則として「～世」を採用するが、先代が「～代目」「～代」を採用している場合にはそれに倣う。
- ・末尾の区切り記号
 - ①\$c 又は\$d が続く → コンマ “,”
 - ②\$b がフィールド末尾 → 記号なし

●\$c: その他の付記事項

- ・世系、生没年のみでは同姓同名の識別が困難な場合、識別上必要な生没年が判明しない場合、職業、専攻、初出資料の出版年（月）等をここに記録する（例 4）。
- ・末尾の区切り記号なし

●\$d: 生没年

- ・個人名の生没年を記録する。原則として全て西暦で記録されるが、生没年がはっきりしない場合には、年代を限定できる何らかの語句が記録されることがある（例 3）。
- ・生年と没年はハイフン “-” でつなぐ。
- ・生年のみの場合には生年のあとにハイフンを、没年のみの場合には没年の前にハイフンを記録する。
- ・末尾の区切り記号
 - ①\$d “YYYY-” で\$c が続く → 記号なし
 - ②①以外で\$c が続く → コンマ “,”
 - ③\$d がフィールド末尾 → 記号なし

●\$6: 読みの対応関係

- ・「5. 読みの表現方法」を参照のこと。
- ・末尾の区切り記号なし

(例 1)

100 1# \$6 880-01

\$a 歌川,□豊国

\$b 4 世,

\$d 1823-1880¥

(例 2)

100 3# \$6 880-01

\$a 上杉□(家)□(米沢市)≠

(例 3)

100 1# \$6 880-01

\$a 清少納言,

\$d 平安時代≠

(例 4)

100 1# \$6 880-01

\$a 鈴木,□健二,

\$d 1929-

\$c アナウンサー≠

110 標目-団体名

■インディケータ

一番目: 実体種別

2: 直接形で記入される名称

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し不可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	団体名	必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 団体名

団体名の標目形を記録する (例 1)。設立年、所在地、初出資料の出版年 (月) 等の付記事項がある場合は丸括弧で付記する (例 2)。

●\$6: 読みの対応関係

「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

(例 1)

110 2# \$6 880-01

\$a 国立国会図書館 ¥

(例 2 設立年を付記している例)

110 2# \$6 880-01

\$a 日本総合研究所□(1989年) ¥

130 標目-統一タイトル

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 排列無視文字数

0: 排列無視文字なし

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し不可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	統一タイトル件名	必須	不可
\$v	形式細目	あれば必須	可
\$x	主題細目	あれば必須	可
\$y	時代細目	あれば必須	可
\$z	地名細目	あれば必須	可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$ a: 統一タイトル件名

著者の有無にかかわらず統一タイトル件名標目を記録する (例 1)。ジャンル (例 2) や著者 (例 3) 等を示す限定語句は、サブフィールドで区別せず、丸括弧で\$a に付記する。

●\$v: 形式細目

形式細目を記録する (例 2)。

●\$x: 主題細目

主題細目を記録する。

- \$y: 時代細目
時代細目を記録する。
- \$z: 地名細目
地名細目を記録する。
- \$6: 読みの対応関係
「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

(例 1)

130 #0 \$6 880-01
\$a 純粹理性批判 ¥

(例 2 ジャンル名を付記している例)

130 #0 \$6 880-01
\$a 舞姫 □(小説)
\$v 評釈 ¥

(例 3 著者名を付記している例)

130 #0 \$6 880-01
\$a 歴史 □(ヘロドトス) ¥

151 標目-地名

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	地名	必須	不可
\$v	形式細目	あれば必須	可
\$x	主題細目	あれば必須	可
\$y	時代細目	あれば必須	可
\$z	地名細目	あれば必須	可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 地名

件名標目としてのみ使用する地名（例1）のほかに、著者名標目、件名標目として使用する国名（例2）・地方自治体名等もここに記録する。

●\$v: 形式細目

形式細目を記録する。

●\$x: 主題細目

主題細目を記録する（例2）。

●\$y: 時代細目
時代細目を記録する（例 2）。

●\$z: 地名細目
地名細目を記録する（例 2）。

●\$6: 読みの対応関係
「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

（例 1 件名標目としてのみ使用する地名）

151 ## \$6 880-01
\$a 銀座□(東京都中央区)¥

（例 2 細目付き国名）

151 ## \$6 880-01
\$a 日本
\$x 外国関係
\$z フランス
\$x 歴史
\$y 江戸末期¥

4XX : 「を見よ」参照ブロック

このブロックには、標目ブロック（フィールド 1XX）への「を見よ」参照形（標目形としては採用されなかった名辞）を収める。

■フィールド一覧

- | | |
|-----|------------------|
| 400 | 「を見よ」参照指示-個人名 |
| 410 | 「を見よ」参照指示-団体名 |
| 430 | 「を見よ」参照指示-統一タイトル |
| 451 | 「を見よ」参照指示-地名 |

400 「を見よ」参照指示-個人名

■インディケータ

一番目: 実体種別

1: 個人名

3: 家族名

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	個人名を見よ参照形	必須	不可
\$b	世系	あれば必須	不可
\$c	その他の付記事項	あれば必須	不可
\$d	生没年	あれば必須	不可
\$i	名称種類	あれば必須	不可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

r: \$i に関係を明示

フィールド末尾には区切り記号なし。

●\$a: 個人名を見よ参照形

・個人名（例 1）又は家族名（例 2）の「を見よ」参照形を記録する。

- ・中国韓国朝鮮人名の日本語読みなど、400 に対応する 880 で標目形の読みと異なる読みを記録する場合がある（例 3）。

- ・末尾の区切り記号

- ①**\$b** が続く → 記号なし
- ②**\$c** 又は**\$d** が続く → コンマ “,”
- ③**\$a** がフィールド末尾 → 記号なし

- \$b**: 世系

- ・個人名「を見よ」参照形の世系を記録する（例 1）。

- ・末尾の区切り記号

- ①**\$c** 又は**\$d** が続く → コンマ “,”
- ②**\$b** がフィールド末尾 → 記号なし

- \$c**: その他の付記事項

- ・世系、生没年のみでは同姓同名の識別が困難な場合、又は識別上必要な生没年が判明しない場合、個人名「を見よ」参照形の職業、専攻、初出資料の出版年（月）等をここに記録する。

- ・末尾の区切り記号なし

- \$d**: 生没年

- ・個人名「を見よ」参照形の生没年を記録する。

- ・末尾の区切り記号

- ①**\$d** “YYYY-” で**\$c** が続く → 記号なし
- ②①以外で**\$c** が続く → コンマ “,”
- ③**\$d** がフィールド末尾 → 記号なし

- ・**\$b**、**\$c**、**\$d** は、標目形の**\$b**、**\$c**、**\$d** と異なる場合に記録する（例 1）。

- \$i**: 名称種類

- ・記録する参照形と標目形との関係が公刊資料から明らかな場合は、ここにその関係を文字列で記録する（例 4）。この場合**\$w** に **r** を記録する。

- ・末尾の区切り記号なし

- \$w**: コントロール・サブフィールド

- ・標目形と参照形をコード値で記録する。

- ・参照形に記録した名称が、標目形の、旧称、新称、略称の場合はそれぞれ **a**、**b**、**d** を記

録する（例 1）。

- ・名称種類の記録が必要な場合は r と記録し、\$i に名称種類を文字列で記録する（例 4）。
- ・末尾の区切り記号なし

●\$6: 読みの対応関係

- ・「5. 読みの表現方法」を参照のこと。
- ・末尾の区切り記号なし

（例 1 旧称を記録する 400 に、\$b は記録するが\$d を記録しない場合）

100 1# \$6 880-01
\$a 三遊亭,□円右
\$b 初代,
\$d 1860-1924¥

400 1# \$6 880-02
\$w a
\$a 三遊亭,□円朝
\$b 2 代目¥

（例 2）

100 3# \$6 880-01
\$a 中島□(氏)¥
400 3# \$6 880-02
\$a 中嶋□(氏)¥

（例 3 中国韓国朝鮮人名の日本語読みなど、読みの違いを記録する場合）

100 1# \$6 880-01
\$a 金,□大中,
\$d 1925-2009¥
400 1# \$6 880-02
\$a 金,□大中¥
880 1# \$6 100-01/\$1
\$a キム,□デジュン,
\$d 1925-2009¥
880 1# \$6 100-01/(B
\$a Kimu,□Dejun,
\$d 1925-2009¥

880 1# \$6 400-02/\$1

\$a キン,□ダイチュウ¥

880 1# \$6 400-02/(B

\$a Kin,□Daichu¥

(例 4)

100 1# \$6 880-01

\$a 高森,□朝雄,

\$d 1936-1987¥

400 1# \$6 880-02

\$w r

\$i 本名

\$a 高森,□朝樹¥

410 「を見よ」参照指示-団体名

■インディケータ

一番目: 実体種別

2: 直接形で記入される名称

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	団体名を見よ参照形	必須	不可
\$i	名称種類	あれば必須	不可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

r: \$i に関係を明示

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 団体名を見よ参照形

・団体名の「を見よ」参照形を記録する (例 1)。

・中国韓国朝鮮団体名の日本語読みなど、410 に対応する 880 で標目形の読みと異なる読みを記録する場合がある (例 2)。

●\$i: 名称種類

- ・記録する参照形と標目形との関係が公刊資料等から明らかな場合は、ここにその関係を文字列で記録する（例 1）。この場合\$w に r を記録する。

●\$w: コントロール・サブフィールド

- ・標目形と参照形の間をコード値で記録する。
- ・参照形に記録した名称が、標目形の旧称、新称、略称の場合はそれぞれ a、b、d を記録する（例 1）。
- ・名称種類の記録が必要な場合は r を記録し、\$i に名称種類を文字列で記録する（例 1）。

●\$6: 読みの対応関係

「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

(例 1 旧称「東京動物学会」、英語名「Zoological Society of Japan」、略称「ZSJ」の場合)

110 2# \$6 880-01
\$a 日本動物学会 ¥
410 2# \$6 880-02
\$w a
\$a 東京動物学会 ¥
410 2# \$w r
\$i 英語名
\$a Zoological△Society△of△Japan ¥
410 2# \$w d
\$a ZSJ ¥

(例 2 中国韓国朝鮮団体名の日本語読みなど、読みの違いを記録する場合)

110 2# \$6 880-01
\$a 金大中アジア太平洋平和財団 ¥
410 2# \$6 880-02
\$a 金大中アジア太平洋平和財団 ¥
880 2# \$6 110-01/\$1
\$a キム△デジュン△アジア△タイヘイヨウ△ヘイワ△ザイダン ¥
880 2# \$6 110-01/(B
\$a Kimu△Dejun△Ajia△Taiheiyo△Heiwa△Zaidan ¥

880 2# \$6 410-02/\$1

\$a キン△ダイチュウ△アジア△タイヘイヨウ△ヘイワ△ザイダン ㊦

880 2# \$6 410-02/(B

\$a Kin△Daichu△Ajia△Taiheiyo△Heiwa△Zaidan ㊦

430 「を見よ」参照指示-統一タイトル

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 排列無視文字数

0: 排列無視文字なし

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	統一タイトル件名を見よ参照形	必須	不可
\$i	名称種類	あれば必須	不可
\$v	形式細目	あれば必須	可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$x	主題細目	あれば必須	可
\$y	時代細目	あれば必須	可
\$z	地名細目	あれば必須	可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

r: \$i に関係を明示

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 統一タイトル件名を見よ参照形

統一タイトル件名の「を見よ」参照形を記録する（例 1）。

●\$i: 名称種類

- ・「を見よ」参照形が原名称の場合に、ここに「原名称」を記録する（例 2）。
- ・「を見よ」参照形が「基本件名標目表（BSH）」に収載されている件名標目の場合に、ここに BSH の ID（レコード識別番号）を記録する（例 1）。

●\$v: 形式細目

「を見よ」参照形の形式細目を記録する。

●\$w: コントロール・サブフィールド

- ・標目形と参照形の間をコード値で記録する。
- ・参照形に記録した名称が、標目形の、旧称、新称、略称の場合はそれぞれ a、b、d を記録する。
- ・参照形に記録した名称が原名称又は BSH の場合は r と記録し、\$i に「原名称」等と文字列で記録する（例 1、2）。

●\$x: 主題細目

「を見よ」参照形の主眼細目を記録する（例 1）。

●\$y: 時代細目

「を見よ」参照形の時代細目を記録する。

●\$z: 地名細目

「を見よ」参照形の地名細目を記録する。

●\$6: 読みの対応関係

「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

(例 1)

130 #0 \$6 880-01

\$a ローマ人への手紙 ¥

430 #0 \$6 880-02

\$w r

\$i BSH4:□00587100

\$a 聖書

\$x 新約

\$x ロマ書¥

430 #0 \$6 880-03

\$a ローマの信徒への手紙¥

(例 2)

130 #0 \$6 880-01

\$a 二十四時間の情事□(映画)¥

430 #0 \$w r

\$i 原名称

\$a Hiroshima△mon△amour¥

451 「を見よ」参照指示-地名

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	地名を見よ参照形	必須	不可
\$i	名称種類	あれば必須	不可
\$v	形式細目	あれば必須	可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$x	主題細目	あれば必須	可
\$y	時代細目	あれば必須	可
\$z	地名細目	あれば必須	可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

r: \$i に関係を明示

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 地名を見よ参照形

地名の「を見よ」参照形を記録する（例 1）。

●\$i: 名称種類

- ・「を見よ」参照形の種類を記録する。この場合\$wにrを記録する。
- ・「を見よ」参照形が「米国議会図書館件名標目表(LCSH)」又は「基本件名標目表(BSH)」の場合に、それぞれの典拠番号等を記録する（例 2）。

●\$v: 形式細目

「を見よ」参照形の形式細目を記録する。

●\$w: コントロール・サブフィールド

- ・標目形と参照形の関係をコード値で記録する。
- ・参照形に記録した名称が、標目形の旧称、新称、略称の場合はそれぞれ a、b、d を記録する（例 3）。
- ・名称種類の記録が必要な場合は r を記録し、\$i に名称種類を記録する（例 2）。

●\$x: 主題細目

「を見よ」参照形の主題細目を記録する。

●\$y: 時代細目

「を見よ」参照形の時代細目を記録する。

●\$z: 地名細目

「を見よ」参照形の地名細目を記録する。

●\$6: 読みの対応関係

「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

<2011年11月までに作成したデータ>

2011年11月までに作成した地名典拠に関しては、「を見よ」参照形が451ではなく、フィールド450に記録されている場合がある。

(例 1)

151 ## \$6 880-01

\$a 四万十川¥

451 ## \$6 880-02

\$a 渡川 ㊦

(例 2)

151 ## \$6 880-01

\$a 日本 ㊦

451 ## \$w r

\$i LCCN:□n78089021

\$a Japan ㊦

(例 3 旧称「東利尻町□(北海道)」の場合)

151 ## \$6 880-01

\$a 利尻富士町□(北海道) ㊦

451 ## \$6 880-02

\$w a

\$a 東利尻町□(北海道) ㊦

5XX : 「をも見よ」参照ブロック

このブロックには、標目ブロック（フィールド1XX）の「をも見よ」参照形を収める。

■フィールド一覧

- 500 「をも見よ」参照指示-個人名
- 510 「をも見よ」参照指示-団体名
- 551 「をも見よ」参照指示-地名

500 「をも見よ」参照指示-個人名

■インディケータ

一番目: 実体種別

1: 個人名

3: 家族名

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	個人名をも見よ参照形	必須	不可
\$b	世系	あれば必須	不可
\$c	その他の付記事項	あれば必須	不可
\$d	生没年	あれば必須	不可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$0	リンク先レコード管理番号	必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

フィールド末尾には区切り記号なし。

●\$a: 個人名をも見よ参照形

・個人名又は家族名の「をも見よ」参照形を記録する（例 1、2）。

・末尾の区切り記号

- ①\$b が続く → 記号なし
- ②\$c 又は\$d が続く → コンマ “,”
- ③\$0 が続く → 記号なし

●\$b: 世系

- ・ 個人名「をも見よ」参照形の世系を記録する（例 1、2）。
- ・ 末尾の区切り記号

- ①\$c 又は\$d が続く → コンマ “,”
- ②\$0 が続く → 記号なし

●\$c: その他の付記事項

- ・ 世系、生没年のみでは同姓同名の識別が困難な場合、又は識別上必要な生没年が判明しない場合、個人名「をも見よ」参照形の職業、専攻、初出資料の出版年（月）等をここに記録する。
- ・ 末尾の区切り記号なし

●\$d: 生没年

- ・ 個人名「をも見よ」参照形の生没年を記録する（例 1、2）。
- ・ 末尾の区切り記号

- ①\$d “YYYY-” で\$c が続く → 記号なし
- ②①以外で\$c が続く → コンマ “,”
- ③\$0 が続く → 記号なし

●\$w: コントロール・サブフィールド

- ・ 標目形と参照形の関係をコード値で記録する。
- ・ 参照形に記録した名称が、標目形の旧称、新称、略称の場合はそれぞれ a、b、d を記録する（例 2）。
- （上記以外の場合は、名称種類及び参照先典拠の漢字形が 680\$i に記録されている（例 1）。）
- ・ 末尾の区切り記号なし

●\$0: リンク先レコード管理番号

- ・ リンク先レコード管理番号を記録する。
- ・ 末尾の区切り記号なし

●\$6: 読みの対応関係

- ・ 「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

・末尾の区切り記号なし

(例 1)

100 1# \$6 880-01

\$a 片岡,□千代之助,

\$d 1903-1994¥

500 1# \$6 880-02

\$a 片岡,□仁左衛門

\$b 13 世,

\$d 1903-1994

\$0 00027395¥

680 ## \$i 芸名:□片岡,□仁左衛門□13 世,□1903-1994.¥

(例 2 旧称「中村扇雀 2 世」、新称「坂田藤十郎 4 世」の場合)

100 1# \$6 880-01

\$a 中村,□鷹治郎

\$b 3 世,

\$d 1931-¥

500 1# \$6 880-02

\$w a

\$a 中村,□扇雀

\$b 2 世,

\$d 1931-

\$0 00051933¥

500 1# \$6 880-03

\$w b

\$a 坂田,□藤十郎

\$b 4 世

\$0 01014871¥

510 「をも見よ」参照指示-団体名

■インディケータ

一番目: 実体種別

2: 直接形で記入される名称

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	団体名をも見よ参照形	必須	不可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$0	リンク先レコード管理番号	必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 団体名をも見よ参照形

団体名の「をも見よ」参照形を記録する (例)。

●\$w: コントロール・サブフィールド

・標目形と参照形の間をコード値で記録する。

・参照形に記録した名称が、標目形の旧称、新称、略称の場合はそれぞれ a、b、d を記録

する（例）。

（上記以外の場合は、名称種類及び参照先典拠の漢字形が 680\$i に記録されている。）

- \$0: リンク先レコード管理番号

リンク先レコード管理番号を記録する。

- \$6: 読みの対応関係

「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

（例 新称「核燃料サイクル開発機構」の場合）

110 2# \$6 880-01

\$a 動力炉核燃料開発事業団¥

510 2# \$6 880-06

\$w b

\$a 核燃料サイクル開発機構

\$0 00691083¥

551 「をも見よ」参照指示-地名

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	地名をも見よ参照形	必須	不可
\$v	形式細目	あれば必須	可
\$w	コントロール・サブフィールド*1	あれば必須	不可
\$x	主題細目	あれば必須	可
\$y	時代細目	あれば必須	可
\$z	地名細目	あれば必須	可
\$0	リンク先レコード管理番号	必須	不可
\$6	読みの対応関係	あれば必須	不可

*1 \$w: コントロール・サブフィールド

/0: 標目形との関係

a: 旧称

b: 新称

d: 略称

g: 上位語

h: 下位語

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

- \$a: 地名をも見よ参照形
地名の「をも見よ」参照形を記録する (例)。
- \$v: 形式細目
「をも見よ」参照形の形式細目を記録する。
- \$w: コントロール・サブフィールド
 - ・ 標目形と参照形の間をコード値で記録する。
 - ・ 参照形に記録した名称が、標目形の旧称、新称、略称の場合はそれぞれ a、b、d を記録する。上位語の場合は g、下位語の場合は h を記録する (例)。関連語の場合、\$w は記録しない。
 (上記以外の場合は、名称種類及び参照先典拠の漢字形が 680\$i にも記録されている。)
- \$x: 主題細目
「をも見よ」参照形の主語細目を記録する (例)。
- \$y: 時代細目
「をも見よ」参照形の時代細目を記録する (例)。
- \$z: 地名細目
「をも見よ」参照形の地名細目を記録する。
- \$0: リンク先レコード管理番号
リンク先レコード管理番号を記録する。
- \$6: 読みの対応関係
「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

(例 細目付き地名件名「日本 -- 歴史 -- 昭和時代」、上位語「日本 -- 歴史 -- 明治以後」、下位語「日本 -- 歴史 -- 昭和前期」「日本 -- 歴史 -- 昭和後期」の場合)

151 ## \$6 880-01

\$a 日本

\$x 歴史

\$y 昭和時代

551 ## \$6 880-03

\$w g

\$a 日本

\$x 歴史

\$y 明治以後

\$0 00568295¥

551 ## \$6 880-04

\$w h

\$a 日本

\$x 歴史

\$y 昭和前期

\$0 01034578¥

551 ## \$6 880-05

\$w h

\$a 日本

\$x 歴史

\$y 昭和後期

\$0 01034579¥

6XX : 注記ブロック

このブロックには、標目形決定の根拠となった出典情報や、注記等を収める。

■フィールド一覧

- 670 根拠
- 675 推量読み等
- 678 来歴
- 680 一般注記
- 682 標目訂正に関する注記

670 根拠

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	根拠	必須	不可
\$b	情報源等	あれば必須	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。

●\$a: 根拠

・末尾に他の記号がなく**\$b**が続き、**\$b**の先頭に記号がない場合は、末尾にコロン“:”を記録する。

・新規に典拠を作成した際の目録対象資料のタイトル、出版年が当サブフィールドに記録される(例1)。

<個人名>

・標目形(名称、読み、世系、生没年、付記事項)の根拠を目録対象資料以外の公刊資料から採用する場合、フィールドを繰り返して記録する。この場合、参照した公刊資料の名称を**\$a**に記録し、何に関する情報であるかを**\$b**に丸括弧を付して記録する(例2)。このフィールドには公刊資料から判明した事項のみを記録し、「推量読み」「日本語読み」といった情報はフィールド**675**(推量読み等)に記録する。

・欧文系外国人名で、米国議会図書館の典拠レコードを参考に作成した場合は、「LCCN: □」に続けて典拠番号(Library of Congress Control Number)を記録する(例3)。この場合、**\$b**は記録しない。

<団体名>

- ・名称の根拠を目録対象資料以外に求めた場合、出典を記録する（例 4）。
- ・団体名中に含まれる固有名の読みを参考資料で確認した場合は、その資料名を\$aに記録する。

<個人名、団体名以外の件名標目>

標目形の根拠として採用した参考図書類等の出典を記録する（例 5）。

<2011年11月までに作成したデータ>

2011年11月までに作成したデータは、実際には上述のとおりではない。

新規に典拠を作成した際の目録対象資料のタイトルは、書誌的事項（部編番号、部編名、巻次、責任表示、役割表示）とともに記録されている場合や、請求記号とともに記録されている場合がある。

●\$b: 情報源等

- ・個人名・団体名で使用する。情報源及び判明した情報を記録する（例 2）。ただし、情報源が目録対象資料の本体（各適用細則で「タイトルと責任表示の情報源」として規定している部分）の場合は省略する。
- ・末尾の区切り記号なし
- ・2011年11月までに作成したデータは、実際には上述のとおりではない。
\$bは使用せず、情報源等も\$aに記録している（例 6）。

(例 1)

100 1# \$a Rowling, □J.△K,
\$d 1965- ¥
670 ## \$a ハリー・ポッターと賢者の石, △1999.12 ¥

(例 2)

100 1# \$6 880-01
\$a 村山, □長挙,
\$d 1894-1977 ¥
670 ## \$a みゆかり, △1987.8:
\$b 本文 □(生没年) ¥
670 ## \$a 20世紀日本人名事典
\$b (読み) ¥

880 1# \$6 100-01/\$1
\$a ムラヤマ,□ナガタカ,
\$d 1894-1977¥

880 1# \$6 100-01/(B
\$a Murayama,□Nagataka,
\$d 1894-1977¥

※上記の場合、名称は初出資料の本体から判明したとみなす。

(例 3)

100 1# \$a Smithson,□James,
\$d 1765-1829¥
670 ## \$a スミソニアン博物館の誕生,△2010.12¥
670 ## \$a LCCN:□n79141345¥

(例 4)

110 2# \$6 880-01
\$a くりはら田園鉄道株式会社¥
670 ## \$a サヨナラ!くりでん,△2007.3¥
670 ## \$a 当該団体ホームページ□(20070905)¥

(例 5 標目形の根拠として参考図書を採用した例)

151 ## \$6 880-01
\$a 三国街道¥
670 ## \$a 三国街道永井宿笛木家記録,△2003.11¥
670 ## \$a コンサイス地名辞典△日本編¥

(例 6 2011年11月までに作成したデータの例)

100 1# \$6 880-01
\$a 村山,□長挙,
\$d 1894-1977¥
670 ## \$a みゆかり¥
670 ## \$a 名称:□初出資料¥
670 ## \$a 読み:□20世紀日本人名事典¥
670 ## \$a 生没年:□初出本文¥
880 1# \$6 100-01/\$1
\$a ムラヤマ,□ナガタカ,

\$d 1894-1977¥

880 1# \$6 100-01/(B

\$a Murayama, □Nagataka,

\$d 1894-1977¥

675 推量読み等

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールド任意			
フィールド繰り返し不可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	推量読み等	必須	可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、サブフィールド末尾に区切り記号なし。

●\$a: 推量読み等

- ・ 個人名の読みが公刊資料から判明せず、推量読みを採用した場合、中国・朝鮮人名の読みを日本語読みとした場合（例 1）、名称を推量とした場合、その旨記録する。
- ・ 2011 年 11 月までに作成したデータは、上述のとおりではない。
推量読み等は 670\$a に記録している（例 2）。

（例 1）

100 1# \$6 880-01

\$a 王,□鉞,

\$d 1938-¥

675 ## \$a 日本語読み¥

880 1# \$6 100-01/\$1

\$a オウ,□エツ,

\$d 1938-¥

880 1# \$6 100-01/(B

\$a O,□Etsu,

\$d 1938-¥

(例2 2011年11月までに作成したデータの例)

100 1# \$6 880-01

\$a 林,□源十郎

\$b 11世,

\$d 1865-1935 ¥

670 ## \$a 読み:□推量 ¥

880 1# \$6 100-01/\$1

\$a ハヤシ,□ゲンジュウロウ

\$b 11セイ,

\$d 1865-1935 ¥

880 1# \$6 100-01/(B

\$a Hayashi,□Genjuro

\$b 11sei,

\$d 1865-1935 ¥

678 来歴

■インディケータ

一番目: データ種別

0: 個人名・家族名

1: 団体名・地名

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールド任意			
フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$a	来歴	必須	不可
\$b	来歴の根拠	任意	不可

フィールド末尾には区切り記号なし。又、全てのサブフィールドで、末尾に区切り記号なし。

●\$a: 来歴

以下の事項を記録する。

<個人名>

- ・標目形に含めない生年を記録する。左記の生年の根拠は\$bに記録する（例1）。
- ・職業、所属あるいは主催する団体や結社名、肩書（例1）、資格、専攻分野（例1）を記録する。
- ・賞歴等を記録する。
- ・標目形に含めない生年、専攻分野、賞歴、共同筆名等、性質の異なる情報はフィールドを繰り返して記録する（例1）。

<団体名>

法人格、団体の性格・特徴、経緯や変遷等を記録する（例2）。性質の異なる情報はフィ

ールドを繰り返して記録する。

●\$b: 来歴の根拠

\$a に記録した情報の根拠が必要な場合、ここに記録する (例 1)。

(例 1)

678 0# \$a 1976-

\$b 研究者研究課題総覧△1996¥

678 0# \$a 大学教員¥

678 0# \$a 専攻:□社会保障・社会福祉¥

(例 2)

678 1# \$a 2003 年 4 月名称変更¥

678 1# \$a 2007 年 1 月特定非営利活動法人化¥

680 一般注記

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールド任意			
フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$i	一般注記	必須	不可

他の記号が末尾になれば、フィールド末尾にピリオドを付す。ただし、2011年11月までに作成したデータには、フィールド末尾にピリオドがない場合がある。

●\$i: 一般注記

- ・一般注記はここに記録する（例1）。ただし個人・団体の履歴を表すものは678に記録する。
- ・「をも見よ」参照形と標目形との関係（名称種類）及び参照先典拠の漢字形が、ここに記録されている場合がある（例2）。

（例1）

680 ## \$i 分離独立前のチェコスロバキアには「チェコスロバキア」（典拠ID:□00573587）を使用.¥

（例2）

680 ## \$i 芸名:□片岡,□仁左衛門□13世,□1903-1994.¥

682 標目訂正に関する注記

■インディケータ

一番目: 未定義

#: 未定義

二番目: 未定義

#: 未定義

フィールド任意			
フィールド繰り返し不可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$i	標目訂正に関する注記	必須	可

他の記号が末尾になれば、フィールド末尾、サブフィールド末尾にピリオドを付す。

●\$i: 標目訂正に関する注記

- ・ 標目訂正に関する事項を記録する。記録すべき事項が複数ある場合は、サブフィールドを繰り返して記録する。新しい訂正注記は、一番先頭に記録する（例 1）。又、一度に複数の項目を訂正する場合は、①\$a②\$a の読み③その他のサブフィールドの順に \$i を繰り返して記録する。
- ・ 標目訂正前の形と訂正後の形を、訂正日付（西暦年 4 桁、月、日）と共に記録する。

（例 1）

682 ## \$i セイロン→スリランカ□(20040218)

\$i ビルマ→ミャンマー□(20020116)¥

（例 2 同一標目形のまま典拠の種類を変更する場合）

682 ## \$i 団体名→地名□(20111027)¥

8XX : 代替表現ブロック

このブロックには他の字形による表現（カナ読み・ローマ字読み）を収める。

■フィールド一覧

880 他の字形による表現（カナ読み・ローマ字読み）

880 他の字形による表現（カナ読み・ローマ字読み）

■インディケータ

対応するフィールドのインディケータと同じ

フィールドあれば必須 フィールド繰り返し可			
サブフィールドコード		入力	繰り返し
\$6	読みの対応関係	必須	不可
上記以外のサブフィールドは、対応するフィールドのサブフィールドと同じ			

正規フィールドに対応するカナ形・ローマ字形読みを記録する（例 1、2）。フィールド・サブフィールド末尾の区切り記号は、対応するフィールドのルールに従う。詳細は「5. 読みの表現方法」を参照のこと。

●\$6: 読みの対応関係

正規フィールドと読みフィールドの対応関係は、\$6 に下記のとおり値を格納することにより表現する。

正規フィールド：読みフィールド番号-オカレンス番号

読みフィールド（カナ形）：正規フィールド番号-オカレンス番号/\$1

読みフィールド（ローマ字形）：正規フィールド番号-オカレンス番号/(B

（例 1）

100 1# \$6 880-01

\$a 栗本,□薫,

\$d 1953-2009¥

500 1# \$6 880-02

\$a 中島,□梓,

\$d 1953-2009

\$0 00104727¥

880 1# \$6 100-01/\$1

\$a クリモト,□カオル,
\$d 1953-2009¥
880 1# \$6 100-01/(B
\$a Kurimoto,□Kaoru,
\$d 1953-2009¥
880 1# \$6 500-02/\$1
\$a ナカジマ,□アズサ,
\$d 1953-2009
\$0 00104727¥
880 1# \$6 500-02/(B
\$a Nakajima,□Azusa,
\$d 1953-2009
\$0 00104727¥

(例 2)

151 ## \$6 880-01
\$a 三国街道 ¥
451 ## \$6 880-02
\$a 三国通り ¥
880 ## \$6 151-01/\$1
\$a ミクニ△カイドウ ¥
880 ## \$6 151-01/(B
\$a Mikuni△Kaido ¥
880 ## \$6 451-02/\$1
\$a ミクニ△ドオリ ¥
880 ## \$6 451-02/(B
\$a Mikuni△dori ¥

付録 A 文字種の取扱い基準（2012年1月以降）

『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』に使用する文字種の取扱い基準

この文書では、『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』での文字の取扱いについて規定する。

なお、『JAPAN/MARC 2009 フォーマット』で使用する文字の取扱いは「[文字種の取扱い基準（2008年4月～2011年12月）](#)」と同様である。ただし、2012年1月以降に提供するデータは、追加文字コードを使用せず、追加文字に相当する部分はゲタ文字（=）に置換える。

目次

1. 使用する文字コード
2. Unicode 基本多言語面（U+0000-FFFF）内のコード値を持つ文字の取扱い
3. Unicode 基本多言語面（U+0000-FFFF）内のコード値を持たない文字の取扱い
4. 漢字の字形や意味の判断
5. 当基準の適用範囲と基準の変更に伴う訂正

1. 使用する文字コード

単行資料、逐次刊行資料ともに Unicode/UTF-8 を使用する。

2. Unicode 基本多言語面（U+0000-FFFF）内のコード値を持つ文字の取扱い

基本多言語面（U+0000-FFFF）内のコード値を持つ文字を使用する。Unicode 基本多言語面外のコード値を持つ文字については、後述 3. 「Unicode 基本多言語面（U+0000-FFFF）内のコード値を持たない文字」と同様に扱う。

漢字は、CJK 統合漢字（U+4E00-9FFF）及び CJK 互換漢字（F900-FAFF）内のコード値を持つ文字を使用する。

Unicode 基本多言語面内のコード値を持つ文字でも、下記①～③のいずれかに該当する場合は、当該文字を使用しない。

①Unicode 基本多言語面内のコード値を持つ文字が、省略しても意味上の理解が可能な装飾的な場合は、省略する。

②Unicode 基本多言語面内のコード値を持つ文字が、○や□で囲まれた合成文字である場合は、○や□の中の文字を（ ）、「 」で囲んだ形に置換える。

③Unicode 基本多言語面内のコード値を持つ文字を、当館のシステム上入力できなかった場合等は、後述 3. 「Unicode 基本多言語面（U+0000-FFFF）内のコード値を持たない文

字」と同様に扱うことがある。

3. Unicode 基本多言語面 (U+0000-FFFF) 内のコード値を持たない文字の取扱い

Unicode 基本多言語面外のコード値を持つ文字、及び Unicode コード値を持たない文字は、①、②、③、④の順序で対応する。当館独自に私用面 (U+E000-F8FF) のコード値を割り当てることはしない。

①意味上もしくは字形上関連する、Unicode 基本多言語面のコード値をもつ文字に置換える。

②当該文字の読みを角括弧 [] で囲んだ片仮名で記録する (以下「仮名読み」という)。2 字以上の文字の音節が重なり、別個の音節を形成する連声や、熟語訓のように 1 字だけ仮名読みすると意味が不明瞭になる場合には、熟語単位で仮名読みを行う。あるいは翻字する。

③当該資料中に表示されている、「Unicode 基本多言語面のコード値をもつ文字」で表現できる別表記を、角括弧 [] で囲んで記録する。

④ゲタ文字 (=) に置換える。

4. 漢字の字形や意味の判断

漢字の字形や意味の判断は、以下の漢和辞典に即して行う。

- (1) 大漢和辞典 諸橋轍次著 修訂第 2 版 大修館書店
- (2) 新字源 小川環樹 [ほか] 編 改訂版 角川書店

5. 当基準の適用範囲と基準の変更に伴う訂正

5-1. 2011 年 12 月までの記述部分のデータ

訂正しない。

5-2. 2011 年 12 月までの標目部分のデータ

字体の統一を行っていたものについては、原則として訂正しない。ただし、同一の標目が資料の情報源に違う字体で表示されている場合については、典拠データにその字体を参照形として追加する。

5-3. 2012 年 1 月以降の記述部分のデータ

当基準で記録する。

5-4. 2012 年 1 月以降の標目部分のデータ

既出の標目は、当基準に従っていないものも、原則としてそのままの形で記録する。新規の標目は当基準で記録する。

付録 B 『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』における片仮名読み表記要領

0. 読みの表現

『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』では、漢字データとその片仮名読み、ローマ字読みのデータを収録するときは、その関係を以下のとおり 880 フィールドとそれ以外のフィールドの組で表現する。

- 880 以外のフィールド（以下「正規フィールド」という）：
漢字データを収録する。
組となる片仮名読み、又はローマ字読みがあるときは、サブフィールド\$6 に組となるフィールド番号「880」とオカレンス番号を収録する。
- 880 フィールド：
片仮名読み、及びローマ字読みを、フィールドを繰り返して収録する。
第1インディケータ、第2インディケータとも、組となる正規フィールドと同値とする。
サブフィールド\$6 に、組となる正規フィールドのフィールド番号、オカレンス番号、及び当該 880 フィールドの文字種コードを収録する。
文字種コードは、片仮名読みの場合「\$1」、ローマ字読みの場合「(B)」とする。

(例) 245 フィールドの読みを収録する場合

245 00 \$6 880-01

\$a 山王遺跡：

\$b 山王遺跡第1次調査区発掘調査報告書. ¥

880 00 \$6 245-01/\$1

\$a サンノウ イセキ：

\$b サンノウ イセキ ダイ 1 ジ チョウサク ハックツ チョウサ ホウコク
シヨ. ¥

880 00 \$6 245-01/(B

\$a Sanno iseki：

\$b Sanno iseki dai1ji chosaku hakkutsu chosa hokokusho. ¥

以下、880 フィールドに収録する片仮名読みの表記について規定する。例示中の「△」は半角スペースを表す。

1. 和語、漢語

組となる正規フィールドが和語、漢語（漢字を使用する日本、中国、韓国・朝鮮の個人名、団体名、地名を含む）のみで表示されているときは、その発音に従い、第1表及び第2表に従って表記する。以下に主要な留意点を例示する。

ア) 旧かなづかい

旧かなづかいはその現代語音によって表記する。

てふてふ → チョウチョウ

どぜう → ドジョウ

としゑ → トシエ

イ) 助詞「ハ」「ヘ」「ヲ」

助詞「ハ」「ヘ」「ヲ」は「ワ」「エ」「オ」と表記する。

こんにちは → コンニチワ

いずこへ → イズコエ

字を書く → ジ△オ△カク

ウ) 「ヂ」「ヅ」

2語の連合又は同音の連呼によって生じた「ヂ」「ヅ」は「ジ」「ズ」と表記する。

ちかぢか → チカジカ

磯づり → イソズリ

かなづかい → カナズカイ

ちぢむ → チジム

つづり方 → ツズリカタ

宝塚 → タカラズカ

エ) 拗音、促音

拗音を表す「ヤ」「ユ」「ヨ」は、「ャ」「ュ」「ョ」と小字で表記し、促音を表す「ツ」は、「ッ」と小字で表記する。

著者 → チョシヤ

雑誌 → ザッシ

オ) 長音

(1) ア列の長音は、「ア」と表記する。

母さん → カアサン

(2) イ列の長音は、「イ」と表記する。

兄さん → ニイサン

(3) ウ列の長音は、「ウ」と表記する。

有数 → ユウスウ

(4) エ列の長音は、「エ」と表記する。

姉さん → ネエサン

(5) オ列の長音は、「ウ」と表記する。ただし、現代かなづかいで「お」と書き表される

長音は、「オ」と表記する。

労働法 → ロウドウホウ

父さん → トウサン

大阪 → オオサカ

氷 → コオリ

十日 → トオカ

遠目 → トオメ

カ) 拗長音

(1) ア列拗音の長音は、「ャ」のつぎに「ア」と表記する。

じゃあね → ジャアネ

(2) ウ列拗音の長音は、「ュ」のつぎに「ウ」と表記する。

乳牛 → ニュウギユウ

(3) オ列拗音の長音は、「ョ」のつぎに「ウ」と表記する。

表彰 → ヒョウショウ

2. 外来語

組となる正規フィールドが外来語（片仮名で表示されている外国人名、団体名、地名、外国語を含む）で表示されているか、その一部に外来語を含むときは、原則として第1表に従って、表示されているとおりに表記する。第1表にない文字で第2表にある文字は第2表に従う。

ただし、第1表、第2表にない文字については第1表に含まれる文字に置換える。

ア) 第1表に従って表記するもの

バレエ → バレエ

バレー → バレー

シェイクスピア全集 → シェイクスピア△ゼンシュウ

シェークスピヤ全集 → シェークスピヤ△ゼンシュウ

シェクスピア物語 → シェクスピア△モノガタリ

キェルケゴール → キェルケゴール

クォータリー → クォータリー

グョエテ → グョエテ

イ) 第2表に従って表記するもの

第1表にない文字は、第2表に従って表記する。

キタ・セクスアリス → イタ△セクスアリス

ワ^ルルレンシュタイン → ヴァルレンシュタイン

エ^ニニス → ヴェニス

ビルヂング → ビルジング

ウ) 第1表、第2表にないもの

第1表になく、第2表にも指定の無い文字は、第1表に含まれる文字に置き換える。

カ° → カ

エ) 漢字で表示されている外来語

漢字で表示されている外来語、外国人名、地名等は、その発音に従い、第1表によって表記する。この場合、長音、拗長音は長音符（ー）で表記する。

那波烈翁ト那把盧的 → ナポレオン△ボナパルト

倫敦 → ロンドン

伯林 → ベルリン

珈琲 → コーヒー

紐育 → ニューヨーク

3. ラテン文字等

ア) ラテン文字

組となる正規フィールドがラテン文字（拡張ラテン文字を含む。以下同じ）のみで表示されているときは、880フィールドへの収録を省略することがある。

正規フィールドの一部にラテン文字を含むときは、そのままラテン文字で表記する。ただし、著者・出版者の意図による読みとしてルビがあるときはルビによる読みに従って表記する。

M&A → M△&△A

The 万年筆 → The△マンネンヒツ

pH の理論と測定 → pH△ノ△リロン△ト△ソクテイ

日本 BSCS 委員会 → ニホン△BSCS△イインカイ

D.H. ロレンスの文学 → D.△H.△ロレンス△ノ△ブンガク

MS-DOS プログラミング → MS-DOS△プログラミング

Pattern△making の研究 → Pattern△making△ノ△ケンキュウ

Café 吉祥寺で → Café△キチジョウジ△デ

イ) キリール文字・ギリシア文字

組となる正規フィールドがキリール文字・ギリシア文字のみで表記されているか、又は正規フィールドの一部にキリール文字・ギリシア文字を含むときは、第3表に従ってラテン文字に翻字する。

Преступление△и△наказание

→ Prestuplenie△i△nakazanie

επιστημη のオブジェクト指向的日常

→ Episteme△ノ△オブジェクト△シコウテキ△ニチジョウ

著者・出版者の意図による読みとしてルビがあるときは、ルビによる読みに従って表記する。

β 遮断剤とは → ベータ△シャダンザイ△トワ

4. 数字

ア) 漢数字

(1) 漢字形が漢数字で表示されているか、その一部に漢数字を含むときは、原則として次のとおり表記する。

一 → イチ 二 → ニ 三 → サン 四 → シ 五 → ゴ
六 → ロク 七 → シチ 八 → ハチ 九 → ク 十 → ジュウ
零 → レイ

注：「十」が他の語と結びついて促音となるときは、「ジッ」と表記する。

十進法 → ジッシンホウ

十戒 → ジッカイ

(2) 漢数字が成語又は固有名詞の一部に含まれていて、慣用の読み方が確立しているときは、典拠とする参考資料に従って表記する。

四次元 → ヨジゲン

六義園 → リクギエン

七転八起 → ナナコロビ△ヤオキ

九尾の狐 → キュウビ△ノ△キツネ

(3) 漢数字が数量、及び序数を示すときはアラビア数字で表記することがある。

五十周年記念誌 → 50 シュウネン△キネンシ

二十世紀の千人 → 20 セイキ△ノ△1000 ニン

イ) アラビア数字

組となる正規フィールドの一部にアラビア数字を含むときは、原則としてそのままアラビア数字で表記する。又、アラビア数字のままの表記で不自然なものは片仮名で表記し、著者・出版者の意図による読みとしてルビがあるときはルビによる読みに従って表記する。

8mm 映画ハンドブック → 8mm△エイガ△ハンドブック

20年の歩み → 20 ネン△ノ△アユミ

4次元 → 4 ジゲン

10回 → 10 カイ

1995.1.17 を証言する → 1995. △1. △17△オ△ショウゲンスル

1/10万 → ジュウマンブンノイチ

2日制 → フツカセイ

ウ) ローマ数字

組となる正規フィールドの一部にローマ数字を含むときは、原則としてアラビア数字に置換えて表記する。又、アラビア数字の表記で不自然なものは片仮名で表記し、著者・出版者の意図による読みとしてルビがあるときはルビによる読みに従って表記する。

ラムセスⅡ世 → ラムセス△2セイ

WWⅡ → WW2

5. 記号

組となる正規フィールドに記号を含み、かつ、その記号を省略するとその名称自体が損なわれる場合は、原則としてそのまま表記する。又、記号のままの表記で不自然なものは片仮名で表記し、著者・出版者の意図による読みとしてルビがあるときはルビによる読みに従って表記する。

学生のための一太郎@△Windows△95

→ ガクセイ△ノ△タメノ△イチタロウ△@△Windows△95

Lotus 1-2-3△@△Windows△95 → Lotus△1-2-3△@△Windows△95

?と!の話 → ハテナ△ト△ビックリ△ノ△ハナシ

?山宏 → ナヅヤマ△ヒロシ

付・第1表（昭和21年内閣告示第33号による）

ア	イ	ウ	エ	オ				
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)				
カ	キ	ク	ケ	コ		キヤ	キュ	キョ
サ	シ	ス	セ	ソ		シヤ	シュ	シヨ
タ	チ	ツ	テ	ト		チャ	チュ	チョ
		(ツ)						
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ		ニヤ	ニユ	ニョ
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ		ヒヤ	ヒユ	ヒョ
マ	ミ	ム	メ	モ		ミヤ	ミユ	ミョ
ヤ		ユ		ヨ				
(ヤ)		(ユ)		(ヨ)				
ラ	リ	ル	レ	ロ		リヤ	リュ	リョ
ワ				ヲ*				
ン								
		(ヴ)						
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ		ギヤ	ギユ	ギョ
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ		ジヤ	ジユ	ジョ

ダ	ヂ*	ヅ*	デ	ド		ヂャ*	ヂュ*	ヂョ*
バ	ビ	ブ	ベ	ボ		ビャ	ビュ	ビョ
パ	ピ	プ	ペ	ポ		ピャ	ピュ	ピョ

*は『JAPAN/MARC』では使用しない。()は当館追加分。

付・第2表

	正規フィールド	880 フィールドの片仮名読み表記
和語の表記	ゐ	イ
	ゑ	エ
	を	オ
	ぢ	ジ
	づ	ズ
和語（助詞の場合）の表記	は	ワ
	へ	エ
外来語の表記	キ	イ
	エ	エ
	ヲ	オ
	ヂ	ジ
	ヅ	ズ
	ワ ^ゝ	ヴァ
	キ ^ゝ	ヴィ
	エ ^ゝ	ヴェ
	ヲ ^ゝ	ヴォ

付・第3表

キリール文字		翻字形	
А	а	А	а
Б	б	В	в
В	в	V	v
Г	г	G	g
Д	д	D	d
Е	е	E	e
Ё	ё	E	e
Ж	ж	ZH	zh

Э	э	Z	z
И	и	I	i
Й	й	I	i
К	к	K	k
Л	л	L	l
М	м	M	m
Н	н	N	n
О	о	O	o
П	п	P	p
Р	р	R	r
С	с	S	s
Т	т	T	t
У	у	U	u
Ф	ф	F	f
Х	х	KH	kh
Ц	ц	TS	ts
Ч	ч	CH	ch
Ш	ш	SH	sh
Щ	щ	SHCH	shch
Ъ	ъ	”	
Ы	ы	Y	y
Ь	ь	'	
Э	э	E	e
Ю	ю	IU	iu
Я	я	IA	ia

ギリシア文字		翻字形	
A	α	A	a
B	β	B	b
Γ	γ	G (※1)	g
Δ	δ	D	d
E	ε	E	e
Z	ζ	Z	z
H	η	E	e
Θ	θ	TH	th
I	ι	I	i
K	κ	K	k
Λ	λ	L	l
M	μ	M	m
N	ν	N	n
Ξ	ξ	X	x
O	ο	O	o
Π	π	P	p
P	ρ	R	r
P	ρ	RH	rh
Σ	σ	S	s
T	τ	T	t
Υ	υ	Y	y
Φ	φ	PH	ph
X	χ	CH	ch
Ψ	ψ	PS	ps
Ω	ω	O	o

(※1) γ、κ、χの前ではGではなくNと表記する。

付録 C 『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』におけるローマ字読み表記要領

0. 読みの表現

『JAPAN/MARC MARC21 フォーマット』では、漢字データとその片仮名読み、ローマ字読みのデータを収録するときは、その関係を以下のとおり 880 フィールドとそれ以外のフィールドの組で表現する。

- 880 以外のフィールド（以下「正規フィールド」という）：
漢字データを収録する。
組となる片仮名読み、又はローマ字読みがあるときは、サブフィールド\$6 に組となるフィールド番号「880」とオカレンス番号を収録する。
- 880 フィールド：
片仮名読み、及びローマ字読みを、フィールドを繰り返して収録する。
第1インディケータ、第2インディケータとも、組となる正規フィールドと同値とする。
サブフィールド\$6 に、組となる正規フィールドのフィールド番号、オカレンス番号、及び当該 880 フィールドの文字種コードを収録する。
文字種コードは、片仮名読みの場合「\$1」、ローマ字読みの場合「(B)」とする。

(例) 245 フィールドの読みを収録する場合

245 00 \$6 880-01

\$a 山王遺跡：

\$b 山王遺跡第1次調査区発掘調査報告書. ¥

880 00 \$6 245-01/\$1

\$a サンノウ イセキ：

\$b サンノウ イセキ ダイ 1 ジ チョウサク ハックツ チョウサ ホウコク
シヨ. ¥

880 00 \$6 245-01/(B

\$a Sanno iseki：

\$b Sanno iseki dai1ji chosaku hakkutsu chosa hokokusho. ¥

以下、880 フィールドに収録するローマ字読みの表記について規定する。

1. 使用するローマ字表

「ローマ字のつづり方の実施について」（昭和 29 年内閣告示第 1 号）の第 1 表に従い表

記する。ただし、第 2 表につづり方が示されているものは、第 2 表に従い表記する。別表に一覧を示す。

2. 適用規則

2-1. 撥音「ン」は、すべて「n」を使用する。

案内 annai
ポンプ ponpu

2-2. 撥音の n に後続する字が母音又は y であるときは、n の次に「'」を入れる。

金印 kin'in
パン屋 pan'ya

2-3. 促音は子音を 2 つ重ねる。ただし、フィールドの末尾等に現れる促音で、子音の重複が行えないときは「tsu」を使用する。

切手 kitte
勝てっ katetsu

2-4. 長音及び長母音は無視して表記する。

東宮 togu
お母さん okasan
スーパーカー supaka

2-5. 母音と母音の間に形態素の切れ目があるときは、それぞれの母音を省略しない。

長雨（なが・あめ） nagaame
黄色（き・いろ） kiiro

2-6. 外来語等は第 2 表及び第 1 表に表記があればそれに従う。表にないときは 2 音で表記する。

ペルシャ perusha
デジタル dijitaru
ペルシア perushia
コンツェルン kontsuerun
テレシコワ tereshikowa

2-7. フィールド先頭の 1 文字目、固有名の 1 文字目、人名の姓と名の 1 文字目、件名の細目の 1 文字目は大文字で表す。

別表

ア	イ	ウ	エ	オ					
(ア)	(イ)	(ウ)	(エ)	(オ)					
a	i	u	e	o					
カ	キ	ク	ケ	コ		キャ	キュ	キョ	(キエ)

(カ)			(ケ)						
ka	ki	ku	ke	ko		kya	kyu	kyo	(kye)
サ	シ	ス	セ	ソ		シヤ	シユ	シヨ	(シエ)
sa	shi*	su	se	so		sha*	shu*	sho*	(she)*
タ	チ	ツ	テ	ト		チャ	チュ	チョ	(チェ)
ta	chi*	tsu*	te	to		cha*	chu*	cho*	(che)*
	(テイ)			(トウ)		(テヤ)	(テユ)	(テヨ)	
	(ti)			tu*		(tya)	(tyu)	(tyo)	
ナ	ニ	ヌ	ネ	ノ		ニヤ	ニユ	ニヨ	(ニエ)
na	ni	nu	ne	no		nya	nyu	nyo	(nye)
ハ	ヒ	フ	ヘ	ホ		ヒヤ	ヒユ	ヒヨ	(ヒエ)
ha	hi	fu*	he	ho		hya	hyu	hyo	(hye)
(ファ)	(フィ)		(フェ)	(フォ)		(フヤ)	(フユ)	(フヨ)	
(fa)	(fi)		(fe)	(fo)		(fya)	(fyu)	(fyo)	
マ	ミ	ム	メ	モ		ミヤ	ミュ	ミヨ	(ミエ)
ma	mi	mu	me	mo		mya	myu	myo	(mye)
ヤ		ユ		ヨ					
ya		yu		yo					
(ヤ)		(ユ)		(ヨ)					
ya		yu		yo					
ラ	リ	ル	レ	ロ		リヤ	リュ	リヨ	(リエ)
ra	ri	ru	re	ro		rya	ryu	ryo	(rye)
ワ	(ヰ)		(ヱ)	ヲ	ン				
(ワ)									
wa	(i)		(e)	o	n				
ガ	ギ	グ	ゲ	ゴ		ギヤ	ギユ	ギヨ	(ギエ)
ga	gi	gu	ge	go		gya	gyu	gyo	(gye)
ザ	ジ	ズ	ゼ	ゾ		ジヤ	ジユ	ジヨ	(ジエ)
za	ji*	zu	ze	zo		ja*	ju*	jo*	(je)*
ダ	ヂ	ヅ	デ	ド		(ヂヤ)	(ヂユ)	(ヂヨ)	(ヂエ)
da	ji*	zu	de	do		(ja)*	(ju)*	(jo)*	(je)*
	(デイ)			(ドウ)		(デヤ)	(デュ)	(デヨ)	
	di			du*		(dya)	(dyu)	(dyo)	
バ	ビ	ブ	ベ	ボ		ビヤ	ビユ	ビヨ	(ビエ)
ba	bi	bu	be	bo		bya	byu	byo	(bye)

(ヴァ)	(ヴィ)	(ヴ)	(ヴェ)	(ヴォ)		(ヴァ)	(ヴュ)	(ヴヨ)	
(va)	(vi)	(vu)	(ve)	(vo)		(vya)	(vyu)	(vyo)	
パ	ピ	プ	ペ	ポ		ピャ	ピュ	ピョ	(ピェ)
pa	pi	pu	pe	po		pya	pyu	pyo	(pye)

*は「ローマ字のつづり方の実施について」第2表に従った（又は準じた）表記。（ ）は当館追加分